京城日報
THE KEIJO NIPPO
大正六年十一月十八日
第三千六百五十三號(一)
十七日夕刊 (朝夕刊併せて八頁)

直隷安徽兩派の分裂 這次政變の由來

北軍は王士珍氏より密電を受けし爲めに戰線に[illegible]を失へる[illegible]に今回の政變は北洋閥内に於ける直隷派と安徽派との分裂にて從つて馮段兩氏の乖離せるものと認めらる(北京特電)

熊希齡内閣出現か 王李兩氏辭して受けず

段總理辭職後の候補として王士珍、李經羲、熊希齡の諸氏擧げられたれど王士珍、李經羲の兩氏は辭して受けず或は熊希齡氏内閣を造らんかと傳へらる(天津特電)

段總理辭職近因

段總理辭職の近因は十六日湖南北軍司令官第八師長王汝賢及び北軍副司令范國璋の兩氏より平和解決を要求し來りたるが爲めなり而して[illegible]は王士珍氏を通じて[illegible]と聯絡あるものと解せらる(北京特電)

段總理辭意固し

十六日正午湯[illegible]段祺瑞氏を訪問、兩者の會見は[illegible]時間に亘りたるが段氏は各方面より反對の的となり時局平定の爲め一時責任を解かん事を請へりとて辭意頗る固かりしと(北京特電)

林公使は段[illegible]に就き十[illegible]發[illegible]局へ[illegible]

各總長辭表提出

十六日正午梁啓超氏邸に會合し總辭職を決し[illegible]馮總統が段氏の辭職に依り總理代理を任命せんとせしに拘らず各部打揃ひて辭表を提出したり(北京特電)

黎元洪復職勸告

馮總統は内閣總辭職に就き閣員に對して挙りに慰留し同時に天津に人を派し黎元洪氏に復職を勸告せり(北京特電)

傅督軍逃亡原因

討伐軍總司令王汝賢氏は北軍に停戰を命じ長沙にありて治安維持に任じつゝあり傅良佐氏の逃亡は湖南討伐軍が傅督軍の命に服せず戰意無く且つ南軍の一部隊は長沙の南方約八里の所迄切迫せる爲めなり(長沙特電)

湖南各方面聯絡

湖南督軍傅良佐氏は[illegible]艦の軍艦に乘じて逃亡し北軍總司令王汝賢氏は直ちに會議を開き湖南督軍の後任に就て選擇中なり之れ湖南人の段總理反對熱の熾んなるを語るものにして各方面と湖南人との聯絡存するもの如し(上海特電)

段辭職と林公使

國務總理段祺瑞氏辭職せるを以て林公使は十六日段氏を訪問し辭職の眞相を糺す所ありたり(北京特電)

對李督軍對抗運動命令

段祺瑞氏は安徽の倪嗣沖、福建の李厚基、浙江の楊善德、河南の趙倜、奉天の張作霖等の各督軍に密電を發し江蘇の李純等に對して對抗運動を命ぜり(北京特電)

政務總監出張

山縣政務總監は十四日[illegible]會に出席の爲め[illegible]來る二十五日[illegible]滿會線開通[illegible]一月朝京城出發の豫定なるが[illegible]陶山通譯官隨行すべし

總監入江氏招待

山縣政務總監は目下入京中なる拓殖局書記官入江海平氏を十八日正午[illegible]より朝鮮ホテルに招待し[illegible]を開く由なるが列席者は[illegible]名位なりと

[illegible]鐵道全通

[illegible]は十一月十五日より全通となりたる[illegible]部より京管[illegible]

滿洲に於ける教育事業

總督府視學官 上田駿一郎氏談

[illegible]大連より[illegible]滿洲に於ける教育狀況[illegible]十六日夜歸京[illegible]

今回の視察は誠に有益の擧であつた、之れを一言に盡さば、見聞を弘めたので、朝鮮の教育家が、朝鮮の教育狀態のみを見て居ては、其の改善も捗らず、朝鮮だけのことである、一度

▲國境を踰ゆれば、見聞する處は何れも參考に資すべきものがある、又專門教育に從事する者は、此機會に於て普通教育を視察し、普通教育を擔當する者は、專門に關する智識を得ることも出來る、即ち何事でも、全體を知つて、其部分を究め、而して全體と各部分との關係を明かにするにあらざれば、決して眞實に知つたと謂ひ得らるゝものでない、教育事業も亦同樣で、專門教育に從事する人は、是非とも其階梯たる普通教育に就きて、常に相當の注意を怠つてはならないし、普通教育の任に膺るものは

▲專門教育の模樣を知ることを心懸けねばならないのだが、[illegible]倍て不斷の努力は實際に容易のものではない、然るに今回の如き團體視察を行ふに、各員が視察した箇所に就て相互の意見を交換することもあるし、專門、普通と夫々の教育家が、教育なるものゝ各部と及び其附屬者の關係とを不知不識の間に研究するの効果がある、團員何れも此の點は滿足してゐる、而かして予等の視察した滿洲の教育施設は實に能く行屆いて居る、殊に校舍其他の設備は

▲到れり盡せりである、何しろ金に不自由の無い滿鐵のことゝなれば、我朝鮮現在の經濟では到底企及し得る處ではない、驚いたのは撫順の小學校で、同地には會社で使用する發電所が在るが、石炭は安く供給さるゝし、產物の收益が多いので、一基ロワットの電力がマイナス五厘に當るさうで、從つて電氣力は十分に使へるし、石炭は易いし、萬端の設備が殆んど理想的に出來てゐる、但し教育の成績が、其設備に伴ふや否やは予の視察の及ぶ處では無かつた、夫れから滿洲の

▲在留鮮人の教育機關と[illegible]

各道作物被害

其の後各道に於ける作物の被害を聞くに左の如し

▲全羅北道高敞郡に於ては十月二十九日午前八時三十分頃より同午後四時頃迄の間に於て降雹と同時に颶風あり爲めに水稻の被害見積價格六千餘圓に上れり

▲慶尚南道南海郡の一部に於て九月中旬頃より浮塵子發生し水稻の被害見積價格五百餘圓▲慶尚南道南海郡一同に八月頃より螟虫發生し水稻見積千七百餘圓の被害ありたり

京畿檢米所新設

京畿道にては今回從來設置の米穀大豆檢査所六箇所に加ふるに更に三箇所の米豆檢査出張所を新設する事に決し成り管内大豆の產地たる長湍、汶山及び西井里に檢査出張所設置を確定せり之に由り米豆當業者の不便を除去すると共に一層米豆檢査の實効を擧ん事を期し居れりと

學務長會議

京畿道院[illegible]會議第四日は十七日午前九時三十分より[illegible]學務部長の下に京畿道[illegible]各道學務[illegible]に於て開催午前[illegible]教育法改正[illegible]同四時[illegible]散會せり

學事[illegible]會議は[illegible]學務部に於て開催中なりしが全部終了し十七日は[illegible]見學を爲せり

辭令

朝鮮總督府令[illegible] 福岡德次郎
官分限令第十一條第一項第四號に依り休職を命ず(十二日附)
朝鮮總督府遞信[illegible] 宇都野朝二郎
任朝鮮總督府遞信技師 叙高等官七等十一級俸下賜(十日附)
[illegible] 渡邊周太郎
任京城高等普通學校教諭 叙高等官六等五級俸下賜(十五日附)

土木會議委員

[illegible]府土木局技師坂出鳴海氏に土木會議委員を仰せ付けられたり

香港總督北行

香港總督メー氏の一行は十七日午前[illegible]入京中なりし[illegible]九時三十分南大門驛發列車にて[illegible]の爲め滿鐵沿線の遊覽に向へり

內田夫人向露

今夏歐洲戰爭のため大和に歸省せし駐露大使子爵內田康哉氏夫人政子は令嬢[illegible]同伴[illegible]二十一日歸任[illegible]二十一日午前[illegible]

明年は輸送力が殖へる 同時に釜山內地間の新輸送方法を 久保滿鐵京管局長談

十七日早曉歸京せし久保滿鐵京管局長の談に曰く予が今回大連に行つたのは落任以來可なりな日數も經つし又

▲各線の觀察を略敍すれば鮮鐵の大體だけは了解したから本社の理事長初め各般業務の打合せをなす爲めであつた、滿洲も今年は比較的暖かで結氷が遲れたため特產大豆の出廻りは例年に比し若干遲延の傾向あるも、昨今漸く各停車場に廻著の數を增し車積みの[illegible]大連埠頭も出て來た、然るに困つた事は大連埠頭の滯貨である、今秋來大豆受渡しに關する紛擾が大連取引所にあつてそれが目下訴訟になつてゐる、其の紛擾は

▲滿洲財界の大問題で色々調停する人もあるが今に解け合ひが出來ぬため、多量の大豆は積まれた儘動かないと云ふ有樣である恐らく右の大豆を主として目下大連の滯貨は十數萬噸に達してゐるであらう、そこで例年の如く今後大量の特產が南下して來ては大連埠頭の收容力は甚しい缺乏を來す事と思はるゝ、何とか早く解決さして滿洲大豆の荷動きを活潑にさせたいものである、唯前記の障碍のあるも今後滿洲線に於ける荷動きの頻繁は貨車の不足を來すやうで

▲大連ばかりに求めず[illegible]行く以上何等か釜山內地間の貨物輸送方法を講ぜねばならなくなるだらう[illegible]

▲計畫を定めしなる必要[illegible]石炭が殊に現今に於て切である、石炭の暴騰はお互いに困つたものであるが、滿鮮の如き寒氣烈しき地方の居住者には可成安い石炭を供給したいと云ふのは滿鐵の希望だが撫順炭の需要は非常に多く然も鐵道院から特に求められて若干量の配炭をなす事となつたが、それなどは現在採掘量の撫順炭では到底割き得られないため鐵道院から新たな採掘に要する費用を特に出して貰つて漸く

▲撫順炭の需給契約が出來て[illegible]たやうな次第であつた、實は朝鮮に[illegible]

城法院長歸京

京城覆審法院長城數馬氏は[illegible]東上中なりし京城[illegible]十六日午後九時歸京せり

荻田局長動靜

總督府[illegible]局長荻田悅造氏は十七日午前[illegible]より釜山著[illegible]の爲に建設中なる朝鮮製[illegible]所を[illegible]し同日[illegible]に赴けり

露國領事出發

入京中の在釜山露國領事セリス氏は十七日午前八時四十分南大門驛發列車にて長崎へ向へり

野口軍醫監歡迎宴

京城在志は十六日夕花月に於て朝鮮軍醫部長野口軍醫監の歡迎宴を張りたるが佐藤軍醫部長[illegible]總督府醫院長[illegible]博士等を始め總督府醫院醫官を併せて二十餘名の出席あり歡談時を移し頗る打融けたる宴會なりき

野口軍醫部長下釜

野口軍醫部長[illegible]氏は十七日午前八時[illegible]南大門驛發列車にて釜山に[illegible]

久保理事歸任

[illegible]滿鐵理事久保要藏氏は十六日朝奉天より京城に歸任せり

坂出技師西行

總督府土木局技師坂出鳴海氏は十六日午後九時四十分南大門驛發列車にて鎭南浦に[illegible]

北京政府軍器契約成立

北京政府の軍器買入契約成立せり種類は大砲機關銃小銃にして金額千六百萬圓を三年間に分ちて支拂を爲すものにて普通の商事契約なりと(北京特電)

巴里會議列席委員

十六日の定例閣議にて巴里聯合國會議に列席す可き我委員は駐英大使珍田大使駐佛松井大使に決定し其の隨員は駐英武官海軍少將[illegible]陸軍少將田中[illegible]騎兵大佐[illegible]佛武官歩兵大佐[illegible]海軍大佐なるべし(東京電話)

朝鮮線

は朝鮮線の[illegible]を受くる事は六ケしい[illegible]滿洲線から[illegible]の配給[illegible]利用し其の[illegible]運轉より[illegible]朝鮮線も明年には滿洲線から[illegible]其他で多くの機關車を新造し又機關車も[illegible]運送力が增加せねば[illegible]

[illegible]

岩本判事嚴父

高等法院部長判事岩本勇明氏嚴父[illegible]四郎氏は久々病氣の處十六日午後十時逝去したり葬式其他は追つて發表の筈

阿部主幹入京

滿洲視察中なりし本社主幹阿部充家氏は十七日朝入京浦尾旅館に投宿せり

人事片々

▲西崎[illegible]氏 [illegible]
▲有賀[illegible]氏 [illegible]
▲小[illegible]氏 [illegible]

彼れ此れ

○段總理の辭職は、支那政局に一層の波瀾を添ふるの感深し、南方の勝利か、段氏の失脚か、[illegible]の支那國たらずんば幸也。
○一室に蟄居し、庇を外人に托[illegible]も予の生命を完うす、豈他あらんや。○知友に一書を送つて嘯せる張勳。愈々南洋に赴くべしと傳へらる、段氏の胸中果して如何。
○露國の政變は、愈々混沌として、終に不明也。然かも先づ、闘ふものは王たるべし。ケレンスキー氏の「全部占領」は事實か。
○[illegible]政友會[illegible]原敬君の、郷里に持て居る事甚だし。其の盛岡に至るや、花街に至る迄徳を頌せんとして、唱歌して曰く『盛岡に誇るべきもの三つある、夫れは何かと人に問はゞ、石割櫻にネー原敬氏、アトの一つは露瓶よ』と。文句は隨分思ひ切り拙きも、原君の人氣は發望の的たり。
○射山小川平吉君、北京に到るの日、一夜旅情を慰めんとして、青樓を叩き、鑵齣を以て、遊興幾何と問ふや、五十一圓也と聞き、且つ驚き、直に案内者を叱して曰く『君、君、其後に筆棒如と書いてやつて呉れ給へ』と。歎に飛んだ筆棒を演ず。

鐵鋼
在庫豐富
京城南大門通三丁目
福田又京城倉
電話一二二
振替京城二九二

▲意匠圖案
▲美術刺繍
▲石版描畫
パピラス圖案社
京城永樂町二丁目七六

大正七年
國民日記
(定價五十錢)(郵稅八錢)
日記界中の霸王として日記界の記録を破れる我が國民日記は總ての點に於て日本國民生活の記録として要求する所を具備し愈々本日より發賣す此の新案の完美と新版の威容とを見よ而して大正六年の國民日記は尚多大の需要ありしに不拘品切れの好況を呈せし實例あり此の際後れて悔ゆる事勿れ
發賣所 東京 民友社
朝鮮發賣元
京城日報代理部
京城太平町一丁目
振替京城三〇〇番
取次販賣店
大阪屋號書店
巖松堂京城店
日韓書房
ウツボ屋書店
其他京城日報各地支局

最新式クリニング
和洋洗濯
京城本町二丁目五十五
有江洗濯所
電話九〇二番
洋服類其他毛物一切迅速丁寧に勉强致候間御引立奉希上候

本紙定價 一ヶ月金六十五錢[illegible]
廣告料[illegible]
京城太平町通一丁目
發行所 京城日報社
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 小川三之助
十一月一日發行

陸軍特別大演習

勅語

大演習終了後　大元帥陛下より賜はりたる勅語左の如し（彦根特電）

演習ノ經過ニ就テハ參謀總長ヲシテ講評セシメタリ朕親シク此ノ演習ヲ統監シテ其ノ實績ニ徴シ概子進歩ヲ認ムト雖モ尚ホ考慮ノ餘地多シ方今宇内ノ形勢殊ニ歐洲大戰ノ狀態ニ鑑ミ國軍ノ精鋭ヲ俟ツ事切ナリ爾來將卒益々奮勵以テ大成ヲ期セヨ

▼陣地の爭奪戰が主眼

歐洲戰の實驗に基きて

今回の大演習に於ては白兵戰は見ざりしも是は歐洲戰の實驗に鑑み今後に於ける戰爭は要するに歩兵白兵戰の價値は差程大ならざるものあり即ち陣地の爭奪戰が戰鬪に重要なるものあるべき新經驗に基き今回の大演習は此の陣地爭奪戰を目的とし其方針の下に實行されたるものにして殊に野砲、機關砲、飛行機の活動を主眼とせるもの、如し（十六日午後發電）

▼御野立所に御命名

陛下には今回大演習の御野立所御織山を行幸山、茂賀山を茂賀ケ岡、大堀山を朝日の森と改めたしと御諚あらせられたり（彦根特電）

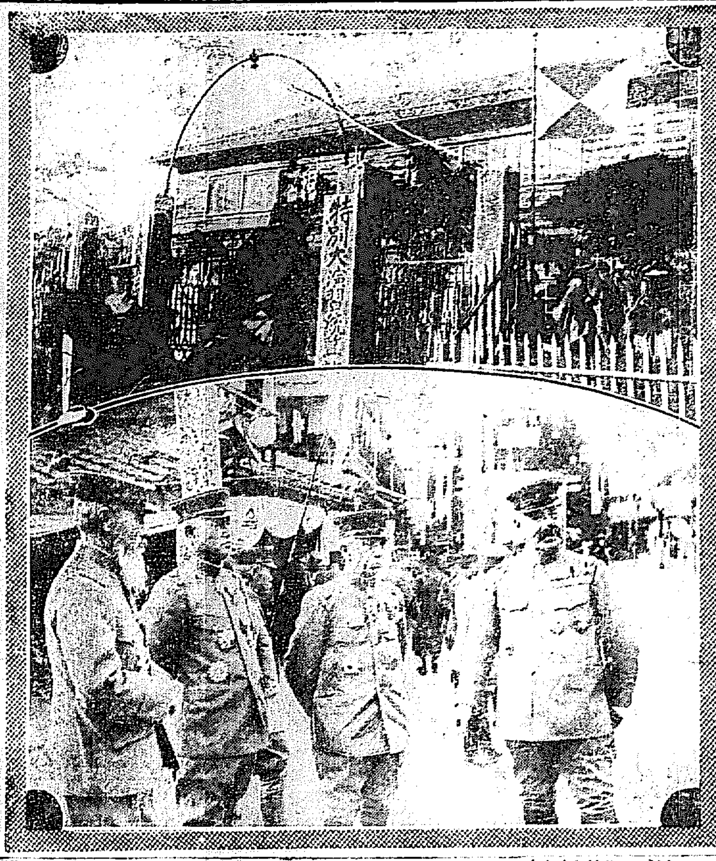
▼光榮ある實業家十二名

滋賀縣下實業家十二名に拜謁を賜

▼決死の冒險飛行

兩軍の殊勳者

今回の演習に於ける兩軍の殊勳者は決死の冒險飛行を敢行せる南軍の航空大尉と中山中尉及び勢田橋破壞の奇功を奏したる北軍の小林大尉と三井少尉となり（彦根特電）



特別大演習統監部（上）と幹部（下）川村元帥、山中中將、安東大將（向つて右より）

素空總監虎物語（二）

陷穴に嵌つた虎と人間を狐が裁判

一つの虎が陷穴に嵌つて三日ばかり何にも食はず將に餓死の悲境に陷らんとしてゐる處へ一人の人間が通りかゝつた。そこで虎は悲鳴を擧げて助けを求めた。するとその人間は『御前を助けてやつても好いけれども助けてやつた後で貴樣に嚙み殺されるからそれは御免を蒙ろう』と斷つた。虎は憐れな聲を出して『いや、決してそんな事はしないから、自分を助けて呉れた者を喰ふなんて事は決してせぬからどうぞ助けて呉れ』と哀願した。すると人間も虎を可哀想に思つて再三念を押した後助けてやつた。

ところが虎は何しろ三日間も何にも喰はずに居つたので、腹が減つて仕方がないからその人間に喰掛つて來た。人間は驚いて虎にその無法を詰ると虎は『實は初めから御前を食ふつもりではなかつたけれど腹が減つてたまらんから何にか喰はずには居られない。恩を仇で報ひて遣るのだ今の場合仕方がないからまあそんな理屈を云はないで食はれて呉れ』といふ。人間は『それは無理だから先づ誰れかの裁判を仰いだ後にしよう』と言ふにそこに立つてゐる木に相談をして見やうと木に向つて自分を助けた恩人を喰つて好いかどうかを相談を持掛けた。すると木曰く『それは喰つても好からう、人間といふ奴は［illegible］勝手な奴だ。俺なぞも少さい內には色々と手を盡して養つて呉れるけれども大きくなつたが最後切つて材木にしたり、薪にしたり自分勝手を遣るそんな奴は喰つても構はないじやないか』と自分は勝手な事のみをする癖に人にばかり理窟が申へるかい』と裁判をした。すると人間は『それは困る。そんならあすこから狐が來るから狐に裁判をして見やう』と云つた。そして狐に［illegible］。

曉霧を破る行軍喇叭

壯快なる京城中學の大演習

京城中學校にては柴崎校長統裁、配屬教官岡村大尉指揮の下に十七日午前七時より漢江小橋以南始興附近約二里の地點に於いて陸軍演習に準據する中學大演習を行ひたり

◇全校七百の健兒　は寒氣凛烈たる曉霧を衝いて校庭に集合五時となるや三年生以上は銃劍、背嚢の武裝勇ましく辨當包みを背嚢代りに背負ひたる二年生以下と共に校門出發、隊伍肅々戰備行軍の隊形を以て校門出發、先頭喇叭手の吹奏する行軍喇叭、朗々として靜まり返れる拂曉の大氣を破つて士氣旺盛正に衝天の概あり、已にして六時三十分

◇東天漸く白みて　全隊はこゝに休息して英氣を養ふこと暫時、稍ありて嚠喨として響き渡る演習開始の喇叭に全隊は曉霧模糊たる漢江江畔に達すれば二つに分れて南北兩軍となり、南軍たる南軍支隊の歩兵一箇大隊が仁川に上陸すべき軍の上陸掩護の爲敵を始興方面に誘致すべき目的を以て永登浦方面に進出すべく

◇前進を開始せる　を以て演習の夜幕は切つて落されたり、然して追擊部隊たる北軍のこれを追ふて漢江橋を渡る者として水面に響き渡り、江上一帶に漲るの感あり、斯くてその前衛を以て小射擊を試みつゝ追擊亦追擊せる北軍支隊は永登浦南方の高地に於いて南軍支隊の主力と衝突し玆に大激戰を試み

◇遂ひに敵を潰走　せしめ始興方面に至れば敵は始興附近の無名川を渡りて逆襲に轉ぜんとし玆に川を挾んで兩軍對峙す時に午前十時、全隊は對陣のまゝ晝食を喫め、十時二十分より更に第二回の演習は

◇稍疲勞の色見に　この想定による支隊が後退を以て開始、この時各年級生徒も途中各所に演習を續行して正午出場部隊の一部は漢江に到達、續いて退却し來る味方の渡河を容易ならしむべく江岸に據つて機關銃隊と共に猛烈なる射擊を開始し、對岸に進出し來れる南部隊亦これに應じて猛に攻擊開かれたるが結局北軍は漢江小橋口北岸に陣地を構へて敵の渡河を阻止せんとしたるも

◇敵の進擊急にして　其の目的を達せず、遂に距離接近したるを以て北軍は急遽逆襲に轉じ、各中隊に起る突擊喇叭に連れて突貫を試み玆に兩軍の主力入り亂れての白兵戰は忽然として演ぜられたる時、演習中止の命令あり兩軍戰を罷めて河原に集合す大尉の講評ありて演習は全く終り午後二時無事歸校せるが此間一名の落伍者も出さざりしは幸ひ也き

◇中學演習　上）江々岸の敵陣突撃　下）兵隊の小休止

獨逸俘虜の大陰謀

獨逸將校悉く拘禁せらる

西比利亞クラスノヤルスクにて獨逸俘虜の大陰謀發見されたり其陰謀は鐵道沿線の俘虜一時に蜂起して武器彈藥糧食の占領を爲さんとするものにて成功前に發見され獨逸將校は悉く拘禁されたり（哈爾賓特電）

列車內の床下から電話機

十六日午前九時四十分元山發京城行列車の發車前同驛三原助役が檢車中三等客車の中央部床下に電話機が一個結び付けあるを發見したり右は同驛構內の自動電話機なる事判明し目下嚴探中なり（元山特電）

讀者文藝

（一等に五十錢）

△物は付『大きいやうで小さいものは』

元山　駒見　偲昧

○問題の種一（？）

△咽喉に［illegible］　櫻恩　衛［illegible］

△［illegible］　京城　一ロッシャン

△［illegible］　京城　匪　介　抄

△來年の［illegible］　利川　うらなり

△［illegible］　元山　內山　孫惡

△［illegible］　龍山　多　美　郎

△小兒の［illegible］　龍山　美　義　芳

△山師の看板　龍山　小　草　子

△夜の火事（先着）　京城　渡邊文太郎

△［illegible］の上の［illegible］　京城　南　山　筑

朝鮮短歌會開催

本社『京日歌壇』主催朝鮮短歌會は來る十一月二十三日新嘗祭當日正午より南山本願寺に於て第五回大會を開催する事にした久し振で多數會員諸氏と會し席上互選、選歌の批評偶感に一日の淸遊を專らにする爲やと云ふのである。歌題は『土』の三首で互選の都合上歌稿の締切を來る二十一日迄とし本社朝鮮短歌會掛まで送稿する事會費は金八錢也當日持參の事で一般多數の參會を希望するのである

猩紅熱

京城北米倉町百四十五番地內田さだ（三十）は十六日猩紅熱と診斷順化院へ

久留島氏本社來訪

久留島武彥氏は小波嚴谷氏［illegible］十七日本社を訪問す

紅灯を境に

朝鮮銀行の阿部［illegible］局長と飯泉國庫課長が十一月初め百日間禁煙の約束をしたのは［illegible］けで禁煙の申合せをした事は曾て御披露申した通りである△［illegible］の約束で恐らく永續きはすまい』と陰口をきく者もあつたが、案の定阿部君が先づ腰を折つて、もう意地も張りもなくなつた、百兩を投げ出さうと叫んで喫みさつた△飯泉君、一月振りで喫む煙草の味は格別だねぶ、プウ……と飯泉君の前で白い煙りを吐き出したさうな△乃で飯泉君は『そんなものだらう、矢張り乃公より意志が弱いや』と、ドロップスを嚙み乍ら苦笑ひして挨拶した△結局近い內に中村熊警務局長等の前で百兩の授受をやり、其上阿部君は飯泉君を始め中村、井內南局長等の證人を一流の旗亭に招待し底拔騷ぎの御馳走をする事に極つた△右に付阿部君は曰く『もう堪へ切れなくなつて喫つたんだが、新聞の發表は御免々々』と、然しかうなつた以上きまりをつけぬ譯には行かぬので、件の通り飯泉君の提議を傳ふる譯だ△此の禁煙約束は可なり諸方面で噂のたねとなつた、殊に花柳界は烈しいものだつたらしく賴まれもせぬのに藝妓や仲居は宴席の兩君に煙草を喫はせ、それをのまぬ方に密告して、賞金に與からうとしたものも少なくなかつたらしいとの事

商況

債券現物特電

公債直取引

深川在米特電

大阪株式特電

大阪三品特電

大阪期米特電

下關期米特電

雜報

◎綿糸布強硬

米棉十錢　更に小高く現物　八圓七十五錢　綿布龍レー

◎羅紗市況落付

◎皮革は商狀軟弱

取引中絕

◎形勢先行頗る不味

◎本炭盛返す

十九錢に上　一圓十錢

◎麥粉小高し

四圓二十錢以下に　約五錢方を引締

◎輸出米假約說

朝鮮米及び防長米の假約定は約五百噸許り成立

◎仁川在庫穀物

一吹米八千五百七十叺　減

下關相場

仁川期米

十七日前場（強硬）

兵庫二十三圓四十四錢、大阪天候晴天　兵庫四十七錢　東京九十七錢　兵庫五十錢　大阪九節十二錢と高移りに買物現はれ依然保合の裡に強硬の成行

各地商況

京城正米

南大門廻穀

釜山穀物（十六日）

生魚市場

仁川取引所

十七日の一月限

北濱だより

市場雜觀

中限の身代り　鞘の先限に向つて買直し

樣子觀　滞く頭間へ

後に於ての反動安を演出　煎れの一順

□募集規程　△用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事

讀者文藝課題及募集規定

東京期米特電　△十七日前場

大阪株式特電

後場　寄付　止商　安値　高値

雲り小雪

●蒙古まで　四鄭線見物（一）

◇奉天にて……巴布札布生◇

◇成吉思汗の後裔たる機關手君◇
◇日本武士道と共鳴する蒙古人◇

滿蒙五鐵道の一つなる四平街鄭家屯の線路も本年中には竣功することゝなつた、昨今は四平街から三江口驛まで卅九哩間を開通し此の十三日には三江口なる

◇遼河の上流に◇

据梁が架設された、大塊翁の文句ぢやあ無いが與安までは正に一區驛である、自分等が長春から七十二哩南下して四平街の驛に著いたのは十一日の午前二時半、戸外は霜滿地寒氣もなか〳〵強かつた、四鄭線の建築列車は午前正六時に出るといふので、御厄介になつた東亞煙草會社支店の

●四鄭線の八面城驛の光景　月下給水タンク建築中（十一月十一日撮影）

◇岩谷氏の事務◇

所に一睡すると間もなく起きあがらねばならなかつた、われ〳〵は幸ひ車掌室に陣取つたので中央の煖爐はむしろ汗ばむ程に暖かであつた、岩谷氏が洋杖で指示される東方の小丘は蜿々神泉のやうに連なつて日露戰役當時露兵の據つた最後の陣地だといふことであつた、何しろ今まで名前にばかり聞いた蒙古を見ようといふので、汽車が動き出してからは愉快であつた、車中はまた請負業の人々から鐵道技師、それに

◇鄭家屯に入込◇

むといふ日本人二八、その他二三の四平街あたりの人が乗り合ひとなつた、真紅の太陽は今し四平街驛のあたり廣い地平線から、じり〳〵と登つて來た、汽罐車は二輛の客車を離して數輛の砂貨車を牽いて來たかと思ふと、貨車をガタン〳〵と身體も飛びあがりさうにぶッつけた、窓際で煖爐に手を翳してゐた半袴の人は

◇危く火傷する◇

ところであつた、イヤ那々面白い機關手君までが成吉思汗の後裔らしく思はれる、汽車はゴトン〳〵ゴトン〳〵と曠漠たる畑中を驅り出した、右を見ても左を見ても大農式による畑ばかり、長い〳〵畝が遠い地平線までも續いて見える、所々に支那人の農家がある、農家の屋根は高粱のやうなもので葺いて日本式の傾斜のあるものもあれば

◇また半圓形の◇

屋根を家としたやうなものもある（これは朝鮮に發掘される古墳の石槨などゝ同一で恐らく朝鮮のむかしも烏賊風だつたと見ゐる）家の周圍には防風林がある、それも白楊、楡、楊のヒョロ〳〵長い樹立ばかり、畑の中にも少しこれ等の立木が分列式をやつてゐる、寂しい〳〵、汽車は今

◇滿鐵の本線と◇

はなれて殆んど直角に近く西に向つて走る、大に走つて蒙古の奥へ行かうといふのである、走れ〳〵大に走つて早く蒙古人の顔を見せて呉れ、弘安四年九州の潮水を飲むだ先生達、君等の先祖と拙者等の先祖は博多海頭にお馴染の間柄だ、近くは巴布札布君の鐵騎といひ、遠くは金鼓天地に震はせて多腦河を渡り匈牙利に攻め入つた君達の日東の國民は君等の氣性と共鳴するところが多いやうだ、蒙古の諸君、早く無邪氣な面を見せて呉れ

汽車は今成吉思汗の國を走つてゐる、昨年巴布札布君の殺到した道を走せてゐる、支那人の巡警と切符賣りが切符の檢査に來た、その後をまた日本人の車掌君が調べる、なる程日支合辦の切符だなと感心してゐる間に汽車は相も變らず海のやうな畑を走る

●對支貸附有望

奉天省農民の金融界は近年次第に不振の傾向あり隨つて一般商民は著しく窮境の觀を呈し最近金融業者に依頼する事深く昨今奉天金融倉庫會社をはじめ其の他同業者の對支那人貸出しは急に增加を來たせり現に奉天信託會社は新たに對支金融を開始せるが最近勃興し來れる擔保貸附等を目的とする事業の前途は極めて有望なりと

●電信速達交渉

朝鮮總督府遞信局にては關東遞信管理局との間に鮮滿電報速達の件に付過般來協定交渉を進めつゝある由にて近く成立を見るべく其の結果一年間數千通の鮮滿發著電信の速達を見るに至るべしと

●無暗な鯛の値

之から滅多に食へぬ
百目が三十錢になる

今年は概して不漁である、魚價が高い爲めに僅かに引合つて居ると云ふ鮮魚類は其の漁獲數量に判ると頗る少ないものである、別して仁川漁界の生命であると云ふ鯛が不漁であるのは水産業界の淋しい計りでなく一般の肴食ひには非常な打撃である

◇近頃は幾何し◇

て居るか、買ふ方でトック承知と云ふ譯だが商買の秘法に闘められて二錢三錢の高低は商人のお手の內にあるから一寸其の眞値は解らぬかも知れぬ、水産會社の發表に依ると前月の平均相場は二十二錢であつた、それが最近では二十五錢位ゐになつて居ると云ふから肴屋の手に渡つて小賣にかけたら矢張り二十七八錢から三十錢になる

◇何故こんなに◇

高いか、近頃の天候では更らに獲れぬ、鮮（鯛）の水揚げは僅かに二三十枚に過ぎぬ事もあると云ふので從つて其値はぜし〳〵出る、殊に第一に取れる筈の四五月の[illegible]これぞや鯛が釣よう筈はない、俗に云ふ海老で鯛釣る事も一寸さう出來ぬそうだ、毎年十二月の四五日頃が鯛の終漁期と云ふから今年は天候が異つて今から荒れ出しもしたら仁川の鯛は

◇絶對に食へぬ◇

事になる、若し幸ひに茲一週間許りも天氣が續くと又少しは釣れ出すとの事である、去年は百目が十五錢位で相應に漁獲もあつたが一面には虎疫の流行もあつたので存外に安かつた、今年は去年の譯に行かぬのは勿論でもう今月も末になると水産會社に紅色の鯛を見る事も出來ぬ樣になつて僅かに釜山方面からの搬入に依りて指身の材料に提供さるゝに過ぎぬ事になる從つて値段も三十錢を呼ぶのは默らかで或ひは其上肴屋泣かせの相場が來るかも知れぬ（仁川）

◎行倒れ

住所不定の乞食鄭順朝の妻崔姓女（六〇）は十五日午後六時半頃南米倉町和樂園の入口に行倒れて死亡せり夫婦は扶養者なき爲め市中を徘徊して乞食をなし居る內營養不良に陷り遂に死亡するに至りたるものにて夫順朝は妻の臨終を路傍にて打ち守り號泣し居るを巡廻中の警官が發見したるものなりと

◎梅鶯會の納會

竹本奈良梅の梅鶯會は十七、八兩日午後六時より壽館に於て淨瑠璃納會を催す由語り物及び出演者次の如し

▲初日● 太功記十段目 [illegible]

▲二日目● [illegible]

白山黒水

▲開原驛長の香田法士は[illegible]露西亞の商業[illegible]蒙古方面から中央亞細亞地方を跋渉し露西亞通と謂つた▲そして那々の露西亞通を以て任ずる流石の伯父さんの本野外相も昨年から露西亞の前途を非常に憂慮して居つたさうだが昨今に至つて愈よ豫想が的中したやうである▲開原と云へば昨今特産物の出廻りが毎日貨車に十ケ輛からある積出しが約三十萬噸▲これを大連として一年間の同驛からの大豆の輸出に於ける總輸出高の百萬噸に比較すると滿洲殺處の約三分の一を占める譯である▲近藤次第であるから經濟上に於ける開原の位置といふものは素晴らしいものである▲外に世間は一向に注意を拂はないが內地あたりの觀光團や視察の名士連に至つては開原を普通の小驛位に看過して了ふ▲しかし苟も滿洲の大豆に注意する者には是非共同地を見逃してはなるまい▲四平街から蒙古の鄭家屯に通ずる四鄭鐵道はいよ〳〵十四日三江口の橋梁開通式を擧げた▲頃日蒙古に入りこむ支那人は毎假なか〳〵の多數である（未完）

◆仁川の海運は淋しい

本年は非常に遲れて昨今絶無の有樣
十二月に入れば大いに活躍せん

例年既に十一月に入れば海岸は混雜する迄に出貨堆積して海運の繁忙を來すの例であるが今年は全然物資の集散が無いと云つても好い位ゐ仁川港の昨今は更らに活氣が無い、何故今年は遲いか、理由は多くある中にも船賃の高いのと相場が昂つて居るので買手が未だ余り多く手を出さぬ傾きがあるのに大なる原因がありはせぬか何にしても本年の海運賃率は

▲△昨年の倍 以上になつて居るから海運に依る物資は尠なからず打撃を蒙る譯である、然し昨年から例年の統計に見ると穀類から輸出せらるゝ貨物三十五六萬噸の內僅かに六萬噸位ゐが汽車に依つて搬出せらるゝもので其他の三十萬近い噸數は總べて汽船に依る外はない、本年は鐵道の側に車其他充分の施設が加へられて假りに一割乃至二割の輸送を增加するとしても八萬噸或ひは九萬噸位ゐが限度であるに違ひない

▲△奥地の物資も本年に限つて激減せりと云ふ事も出來ないから矢張り二十六七萬噸の輸送は之を便船に依らねばならぬ事になる、殊に本年は船舶の

船の對鐵道方策とも見るべき一種として釜山神戸間の穀類運賃百石百八十圓と云ふ定率を設け之に對して群山仁川は僅かに二百圓と云ふ特定を設け船會社の方針としては物資の蒐集を各港に平均せしむるとの方策に有るが如く之が爲め

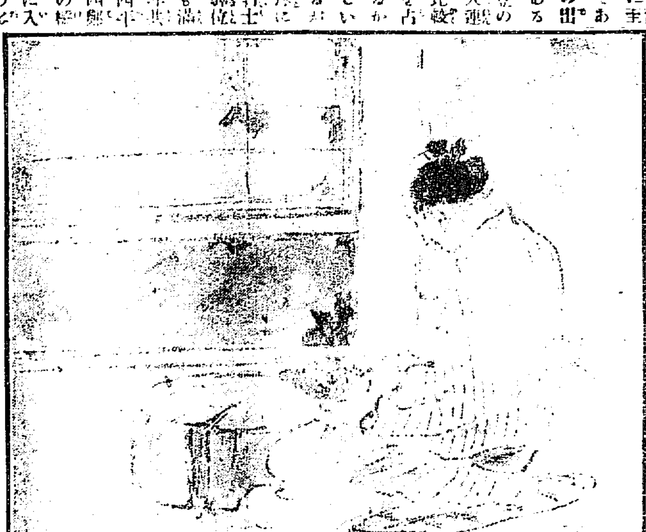
▲△本年は或 は仁川港の搬出も一時に增加するやも知れぬ、每年十二月に入つて著しく繁忙を來すの例で六七萬噸の取扱ひをして居るので本年の如きは一時に出從つて或ひは非常の困難を來すかも計り難い配船の如きは昨今では殆んど積荷が絶無と云ふも些少なのであるが爲め僅かに二箇月に三航海に過ぎないが旺盛期になると勿論月に二航海半位の入港はあるに違ひない船腹は不足だけれども配船の出來ぬ樣な事は萬々あるべき狀態でないから十二月に入つたら船會社の特定せる比較的割の好い恩惠に依つて存外に多量の物資を蒐集する事が出來るだらう此の

▲△運賃二百圓 と云ふ比は釜山と群山仁川の運賃の比較の如きは釜山百八十圓に對しては當港の如きは正に三百圓以上となるべき理由で之が爲め釜山などは稀度の打擊を蒙ると非常に入ケ出販運動して居ると云ふが頗る尤もな話である、然し群山仁川の如きは誠に好都合な譯で此の際運界の躍進を期せねばならぬ譯だらう（仁川海運界有力者談）

左甚五郎

第八十七席　桃川義燕口演　浪上如三郎速記

源吉は佛壇の中より[illegible]源五郎の位牌を取出して家主の前へ差置いた[illegible]と申す者 清『ウム、今鳥渡聞いたが[illegible]』清左衞門は驚いた[illegible]何うだね、[illegible] 源『[illegible]でございます、私の親父は今お話しの[illegible]其の源五郎と云ふ者でございます』清『何だ、今俺が話した源五郎といふのはお前の阿父さんか』源『左樣でございます、其の親父が彫つた面が觀世樣の御意に叶らないので、親父は鬱で咽喉を突いて死にました』清『エ、』源『其の親父の七回忌の當日に差配さんがお出[illegible]



なすつて觀世の處へ納めるのだから其の上の面を彫つてくれろとのお頼みは、全く親父が草葉の影から手引をして下すつたのだらう、立派に其の上の面を彫つて旦那の處へ納めゝば私も宜し、又親父も浮ばれる、何うぞ此の上ともに阿父さん草葉の影から守つて下さいまし』と位牌に對つて手を合はして居る樣子、それを見て清左衞門は驚いた 清『俺はもう歸る、何だか氣味の惡いことばかり云つてこんな處には居られない』と其儘歸らうとした時に、母親のおかつが かつ『差配さん少々お待ち下さいまし』清『イヤ阿母、源吉さんは少し氣が狂つたやうだぜ』かつ『イエ然うではございません、妾も此處で泣いて居りました、今お話しの觀世の旦那樣に頼まれて爽の上の面を彫りましてお出入止にな

清左衞門感心をした 清『ウン然うかね、それは變な話しだがお前が其の位力を入れて拵へたらそれこそ天下に稀な爽の上の面が出來るだらう、何うぞ早速かゝつて下さい』源『差配さん、かゝるなと御仰つてもかゝらずには居りませぬ、恰度今日は親父の七回忌、是より直に仕事始めをいたしまする』清『然うかね、處で日數は何の位かゝるだらう』源『左樣でございます、一日も早くと思ひますが餘り急いでも拙い物を彫りまして亦納らないとなつたら死んだ親父も浮ばれません、何うぞ五十日お待ち下さいまする樣』清『成程五十日か、宜しそれなら其の樣に地主の方へ云つて置かうから』と清左衞門は委細を頼んで歸りまする、源吉は直に諏訪町の甚五郎方へ參つて此の話しをいたし、甚五郎の心添へを聞いて歸つて參つたが、それから一生懸命彫り始めた、晝夜とも暇さへあれば此の面にかゝつて居た、仕事を終りますると、それを面箱へ入れて二重の紐をして一々錠を卸して戸棚へ入れて母にも手をかけさせず又仕事を[illegible]には一と[illegible]へ入つて[illegible]出して仕事にかゝると云ふ始末、月日は遠慮なく經つものでございます、其の內に恰度五十日目になりまして[illegible]清左衞門が[illegible]此の面は地主の手紙を[illegible]觀世の[illegible]とになつた、[illegible]源吉も同道して參る約束、清左衞門は支度して源吉と共に彼の面箱を持つて小挽町の觀世大夫の屋敷を指して參りまする

新築落成　京城明治町二丁目　入院隨意　胃腸病院　院主 佐々木吉造　電話一六五九番

外科一般　皮膚科　泌尿器科　花柳病科　院長 安部修三　京城永樂町二丁目金光教會隣　安部醫院　電話四一九番

胃病良藥　胃活　定價 胃活錠壹圓・五十錢、胃活散壹圓・五十錢、廿錢各藥店にあり　本舗 東京日本橋本銀町 山田安民藥房 大阪南久寶寺町 山田安民藥房

胃も丈夫
であれば、體力も強健になる、頭腦も明晰になる而して有ゆる活動にも艱難にも容易に堪得る樣に成る、胃を丈夫にするには我陸海軍の五大軍醫が合議して製剤た健胃劑中の王と云はるゝ胃活を服むに限る

◎店員入用　數名　年齡十七八歲より二十七八歲迄　本人來談の事但保證人を要す　京城本町一丁目　陶榮商店

演藝案内

有樂館　[illegible]

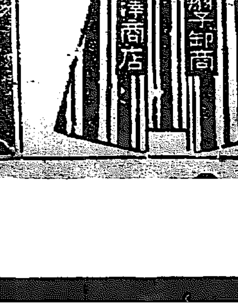
黃金館　電話二六三七　[illegible]

壽館　京城本町　電話一〇五〇　十七八兩日午後六時より梅鶯會秋季大會　[illegible]

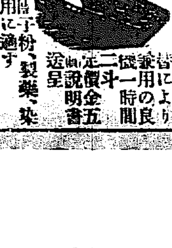
大正館　電話八七三　[illegible]

豫報　[illegible]

父時四郎儀豫て病氣の處養生不相叶昨十六日午後十時死去致候此段御通知申上候
追て來十八日午後四時官舍に於て神式葬儀相營み候
大正六年十一月十七日　朝鮮京城南米倉町官舍
男 岸本以明
親戚 岩本萬龜男
總代 香川德治
友人 渡邊幌亥
代表 園分三
淺見倫太郎



平麥製粉機
▲平麥▲煎餅用小麥粉、製藥、染料其他ノ製粉用に適す（動力用あり）
◎麥は胃腸脚氣病に特効あり
◎製粉は完全運轉は輕快なり
機械製作　東京下谷西町一　小平合名會社　電話下谷一八七四



O封切寫眞　大正館
孔雀草　五巻
初日滿員御禮
大阪朝日新聞連載中　佐藤紅綠先生傑作
[illegible]

公告　[illegible]　大正六年十一月廿日

大阪期米
十七日後場
△當限寄付　二十五圓二十五錢
△中限寄付　二十四圓六十三錢
△先限寄付　二十四圓三十錢

△十七日後場 大阪前場止め高を受けて當限十九圓八十八錢と上伸し一錢さえ寄付たるも買物多く九十二錢と大阪後場高の入り手に二十圓と出したが僅かに折り返し再び九圓[illegible]
△後場 中限二節二十圓三十五錢 四十錢平均値段三十五錢三節三十八錢五錢三錢平均値段三十五錢
△先限 一節十九圓八十八錢九錢

仁川米豆取引所
十七日の一月限
[illegible]

汽車 京釜線(南行) 同(北行) 湖南線(南行) 同(北行) 京義線(北) 同(南行) 京仁線(仁川行) 京元線(北行) 同(南)

腸胃患者の捨つる

五億圓の行衛

五億圓の行衛不明と聽けば何人も驚異の眼を以て見張るであらう、サア何處にそんな莫大の金を捨てゝゐるだらう

近頃安價生活法と云事が喧しく唱へ出れていかにして、比較的廉價な而て滋養分のある食料を求むるかに腐心して居る是は人口増加の結果として生活が益壓迫された爲に起つた當然の反響である、併しモツト／＼大きな經濟上の問題が我々の生活中にある事を案外氣付かぬ人が多い五億圓の行衛とは即ち此問題である。是が此問題を解くには先づ日本人の體質から知らなくてはならぬ、學者の言に依れば遺傳から日本人の一般的體力は歐米諸國人に比して數段劣つて居る夫は日本人には異に健全なる消化器の所有者が僅少なるに[illegible]あるとの事である現在日本の總人口を七千萬人として其五分の一即ち一千四百萬人を腸胃患者乃至虚弱者と假定爲ても決して過算では有まい

◉此一千四百萬人

の人達は毎日攝取した食料の大半を無駄にする百匁の牛肉を喰ても五十匁は素通りで排泄して居るので有る故に腸胃虚弱者の排泄物中には多量の滋養分が保殘されてゐる譯で病院抔から汲出される糞便の肥料價が高いと云ふのも此道理からである、甚だ尾籠な話柄の樣で有が我々は上等の肥料を製造する樣では不可ない、喰た食物はスツカリ血となし肉となして排泄物にはホントの殘滓ばかりと云健全な腸胃でなくてはならぬ、日本國中の腸胃虚弱者等は毎日半分づゝ無駄にする食料は、一日一人平均廿錢の食費とみても十錢の無駄が出る斷定で、是が一千四百萬人の一ケ年では標題の如く五億餘圓の[illegible]く可き巨額が現れるのである決して汚い話題處ではない、何間接に腸胃虚弱から受る國民能率の減退を計上したならば殆ど想像もつかぬ程莫大な損失不經濟で有る、故に安價生活法の根本は先づ日本人の通有病たる腸胃弱者の救濟法が先決問題では有まいか、腸胃さへ健全ならば別に高價の滋養物を攝ずとも普通の食料で立派な保健食料である、如何に消化容易の滋養物でも下痢症でドシ／＼無駄に流出たのでは少しも人體の營養には成ぬ。能く世間には虚弱で困るとか如何程滋養物を食しても

◉瘦せて肥らぬ人

又血の氣の薄い顏をして居るとかいふ人達に聽て見ると、キツト慢性の下痢性に罹つて居る、下痢は我々の體力をどれ程減退さすもので有か、タツタ一二度の下痢に依て其衰弱が忽ち目に見ゆる如く、夫が月に幾回とも繰返す者に有ては絕ず營養分が不足勝で肥つた健康體になれ樣道理は無い、世に慢性下痢と云のは腸胃の虚弱が原因で一[illegible]

[illegible]ら、スグ下痢を起すのを云ので有て、斯樣な不健全な腸胃の人は決して長壽を望む事が出來ぬ、全國死亡率の統計を見るに其六七割迄が腸胃の疾患が原因であり、又後恐るべき肺病も其十中八九は腸胃虚弱の營養不良に基因すると云へば實に戰慄せざるを得ないではないか[illegible]

[illegible]他の腸胃藥に優れる二三を述て一[illegible]ヘルプ[illegible]

[illegible]ヘルプは腸胃[illegible]

[illegible]

ライオン歯磨の品質優秀なる理由

(一)製造基礎の確實

ライオン歯磨製造の基礎は主として、口腔衛生學の示す所に據るのでございます。それゆゑ、天下の學者專門家の説は悉く參考してございます。[illegible]輕率な[illegible]取り入れ[illegible]やり方は、一つもございません。皆悉く信憑すべき[illegible]に基いた、確實且つ親切な衛生品でございます。かの徒らに人の嗜好をそゝるやうな、[illegible]は浅薄な体裁の美なぞには、殆ど目も呉れません。只期する所は、品質の[illegible]な事のみでございます。

(二)原料選擇の嚴肅

ライオン歯磨の原料撰擇が、非常に嚴格を極めてゐることは、既に當業者間にも知れ渡つた事實で、偶々工場縱覽に來られる專門家なぞでも、非常の嚴格さに目を瞠つて、驚かれると云ふ始末でございます。例へば其粉末の微細にして均等なる事は、一寸指頭一掬の極少量なる部分に於ても、顯著に認めらるゝ所の事實でございますから、其他總てに對する注意の嚴肅さ丁寧さは推して知るへしでございましよう。

(三)藥品配合の合理

ライオン歯磨には、各種の貴重藥品が調合してございます。是等の藥品は、口腔衛生學の上から觀て、皆合理、且つ最良のものばかりで、孰れも化學的、又物理學的に歯牙清掃の効果を全うするものでございます。殊に香味の刺戟には、最も注意を致しましたもので、若しその刺戟が餘りに強いときには、口腔粘膜を刺し、神經を痛めますから、温和淡雅と云ふ程度を守りました。これは、今日歯科醫諸氏の是と認めらるゝ所の學説、實驗を土台としたものでございます。それゆゑ、効果の完全と使用上の快感とは申す迄もございません。

(四)工場設備の完全

以上の通り、ふたゝび歯磨の原料を如何なに精選しようとしても、又其配劑を如何なに合理的にしようとしても、若し其の製造工場の[illegible]に、[illegible]には成りません。然るにライオン歯磨に於ては所有手の届いた設備に、常に最新最良の機械を應用して、完全無缺の製品を出すことに腐心致して居ります。就中、誇るべきは化學研究所の施設で、ここには、幾多の技師專門家が揃へて、調劑に、檢査に、研究に、總て親しく實地に當つて活動して居るのでございます。

(五)産額相應の廉價

ライオン歯磨は品質を以て勝り、効果を以て勝り、信用甚大に、生産夥多なるが故に、自然製造に要する費用を輕減して、今日國民一般の衛生に適當なる値段を以て供給することが出來るのでございます。けれども若し個人の衛生以外、高尚なる趣味又は特別の場合の使用に應ずる爲めには、ライオン煉歯磨の美麗上品なるもの、又はライオン水歯磨の便利有効なるものが別に調製してございまして、必ず江湖各位の御滿足を得るやうに、粉製同樣御愛用を願つて居ります。

ライオン歯磨化學研究所所員

藥劑師 松野惠藏　藥劑師 柏倉清基
工學士 竹井俊郎　藥學士 黑川義信
歯科醫師 綠川宗作　歯科醫學士 清水儀三郎
歯科醫學士 岡本清綴

ライオン歯磨　東京本所區外手町
ライオン石鹸　本舗 小林富次郎
支店 [illegible]

(673-8)

京城日報
十八日朝刊（朝夕刊併せて八頁）
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社

大阪三品特電
大阪株式特電
東京期米特電
仁川期米

支那漫遊

天寧寺と白雲觀

蘇峯生

十月十九日、天寧寺に赴く。[illegible]隋代の建設にして、其の十三級の磚塔中には、佛舎利を安置し[illegible]陀するを得可し。[illegible]最近乾隆帝の手を煩はしたる[illegible]は、御製の碑文にて知らる。但だ今や全く荒廢し、塔下野菊[illegible]す。而して明時[illegible]年號を記し、『皇帝萬歳萬々歳』と銘したる鈞鐘の如きも、雜草の裡に拋擲しつゝあり。予等は門に入らんとして、蒙古犬に獰猛に吼えられたり。[illegible]大なる寺域に、住僧四人のみと云へば、犬に誑せしむるも當然ならむ。轉じて白雲觀に[illegible]。[illegible]往楚村と興に、[illegible]たる、丘處機長春眞人[illegible]て、金の太極殿の故址なりと云ふ。[illegible]

[illegible]十二年前、此處の客室にて、觀[illegible]の謁見に接したるあり。今ま之を訪へば、已に十年前に毀したりと云ふ。彼は西太后に寵せられ、政治上の機密に通じ、[illegible]當時日露の兩國間に於ける引張凧となりし程にてありき。[illegible]太湖石を全面に据ゑたる[illegible]を後園に移せば、寂として人なく、[illegible]ば紅葉しつゝあり。予[illegible]劉郎今復來るの感なからんや。而して此邊の光景は、東京近郊の武藏野に似たり。然も白楊[illegible]には、駱駝の往來するあり。[illegible]には、群羊の逍ふあり。[illegible]を汽車が煤烟を吐き噴りつゝあるを[illegible]して仰げば、青空天に[illegible]めば故壘眼を遮る。予は此の小春日和に、瀟灑の空氣を吸ひつゝ[illegible]

[illegible]入一支あり、曰く、[illegible]其の魁と爲す。[illegible]

半畝園雜集

[illegible]

大演習地と史蹟（二）

青霞生

江州は往昔英傑の雄を爭ひし地にして今回の大演習地には史蹟の數ふべきもの少なからず左に重なるものを記すべし

一、野洲、守山附近

▲三上山　野洲停車場の南方約二千米に聳ゆるものを三上山と稱す其形富士山に似たるを以て俗に三上富士と云ふ田原藤太秀郷蜈蚣を退治したるの傳說を以て名あり

思ひ立つ富士の根遠き面影を近く三上の山の端の雲　堯孝

▲篠原　古へ宿驛ありし地にして今の篠原、小篠原等の名あり平家物語に『野路の篠原も打過て鏡の宿に宿りぬれば』とあり野路は栗太郡に屬し草津の西南に在りて附近より異地なれど文章上の語呂善きを以て斯くは書きしものならむか大篠原の西方に一池あり不知池と呼ぶ池畔に平宗盛其子右衛門督清宗父子の塚あり元暦二年六月二十一日源義經、壇の浦に俘虜として[illegible]

▲守山　野洲川の左岸に在りて野洲驛と相對す此も亦往古の宿驛にして『もる山』とも訓せり太平記後[illegible]『もる山の』とあり[illegible]

やつきの影もはづかし　花英女

今しばし暮りをやせん鏡山旅の[illegible]

波うつ志賀の曉に　慈鎭

賤に見る霞なりけり鏡山こしに　大伴黒主

▲鏡山　鏡の南方約半里に聳ゆる[illegible]

[illegible]

▲八幡山城址　[illegible]

二、八幡、安土附近

白[illegible]も時雨もいたくもる山は下葉のこらず色付にけり　紀貫之

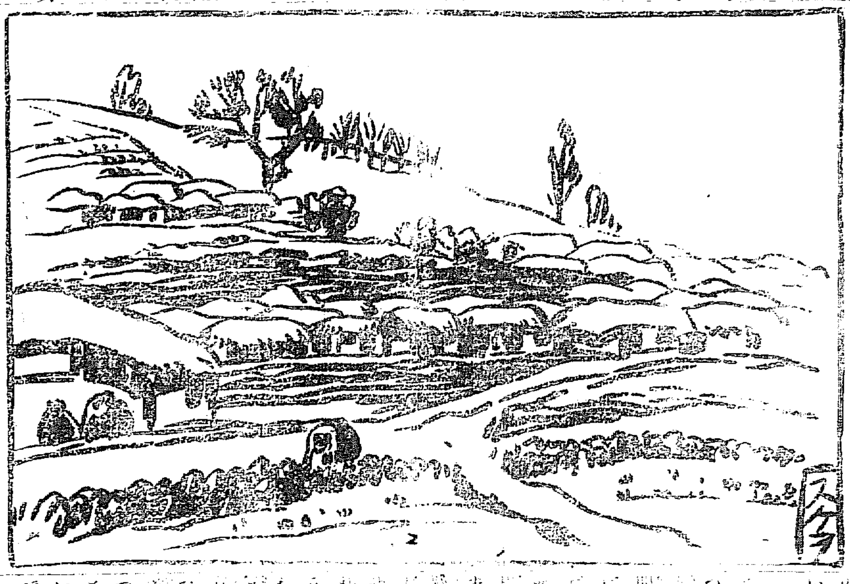
[illegible]

▲安土城址　安土停車場の東北方[illegible]に在り[illegible]天正四年[illegible]安土山を其址と爲す[illegible]信長の構築する所に係り[illegible]天守閣は[illegible]高さ十六間、七層の[illegible]にして[illegible]天正十年六月二日信長本能寺の變に遭ひ[illegible]明智光春の爲に[illegible]

▲沙々貴神社　安土村常樂寺に在り佐々木氏の氏神と爲す佐々木氏の親王[illegible]氏は傳へて敦實親王[illegible]秀義に至り家督[illegible]定綱、經高、盛綱、高綱[illegible]從ひて功あり[illegible]の信任を受く[illegible]江南（愛知川を以て江南、江北に分つ）を領す是を六角氏の祖と爲す二男を氏信と云ひ江北に在りて京極氏の祖と爲る[illegible]勢にして愛知犬上二郡を略取し[illegible]極氏漸く微なり六角氏は義賢[illegible]田氏の西上を支へて[illegible]

又

[illegible]



初冬の丘

[illegible]

▲觀音寺[illegible]　蒲生郡老蘇村清水[illegible]の北方の[illegible]山又は繖山と稱す[illegible]

誰（127）

布施生譯

[illegible]『もしや贋正だつたら』そう言つて老人は胸を噛んだ『第一此手紙を書いたのは何處の誰だか知りたいものだ』手蹟を見たら或は心當りがつくかと思つた老人は一日其紙を縦から横から一點一畫仔細に檢[illegible]

[illegible]

一番簡單なのは贋座を訪ねて實際の眞否を問ひ乱す事である。[illegible]

[illegible]

少女畫報

□待たる、春　□落葉

[illegible]

小說　母を慕ひて

○時間　○動物　○花　○英文　○人形　○姉妹　○撫子姬　○美い玉　○惨状　○花物語　○少女

十二月號

振替東京四千九百番　東京社

◯船舶職員試驗

十二月十日ヨリ元山[illegible]所ニ於テ船舶職員試驗ヲ執行ス[illegible]

大正六年十一月十八日　朝鮮總督府遞信局

古亜鉛板拂下

[illegible]

廣梁灣出張所

冬物賣出し

軍隊拂下品被服類

藏所特製毛布類

[illegible]

和服類中古品

男女給[illegible]

和洋服商　金子與市商店

振替京城三八一三番

富の道しるべ

村上唯吉共著　山縣五十雄

價十五錢

京城太平通　京城日報社代理部

二ヶ月間

一切の筆記に萬年筆のみを使用することに依て

其後は或特殊の場合の外は

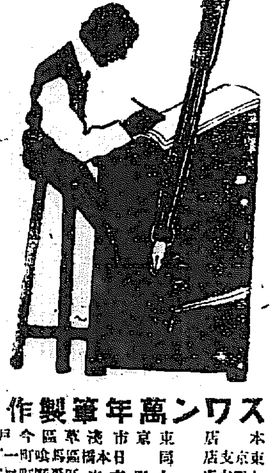
もはや他のものに依る間駄るさ加減を悟り給ふべし

試み玉へ　萬年筆の効能を試みんが爲には

スワン萬年筆を使用せよ

萬年筆用スワンインキ　一瓶　三十錢

目錄進呈　一圓八十錢以上十二圓　全國到る處の文房具店にあり



スワン萬年筆製作所

本店　東京市淺草區今戸町

東京支店　同　日本橋區馬喰町一丁目

大阪支店　大阪市東區平野町二丁目

冬物陶器品揃

陶磁器類
建築用品

京城本町一丁目

陶榮商店

電話長三三二番
振替京城三三二番

家庭で出来る絞染法

大好評　忽四版

定價金八十錢　送料金六錢

△本書は主婦之友編輯局發行前より非常の好評を博し註文殺到僅十日間に四版發行

△本書を讀めば何人も直に精巧なる絞染を作り、僅かの手間と金にて流行着が出來る

△本書には風呂敷、座蒲團、男女兒用兵兒帶、大人物兵兒帶、女帶男女羽織裏地、下着胴裏

△半襟、婦人手提袋、帛紗、膝掛、衣類袢、襦袢袖、花見衣、浴衣、子供袖無羽織、帯揚、帯止

△チヤタイ、子供の給等、多くの寫眞と圖解にて絞方染方を何人にも平易にわかりした

△用途には洋傘の絞染及色揚と染替、女袴と鮫皮の色揚と染替等、廢物利用の秘法を紹す

△本書を讀めば流行に先んじ於て家庭の衣服費を半減し得べし一日早くば一日の利益

手輕でうまい經濟料理（六版）

上卷九十錢　下卷五十錢　送料各四錢

貯金の出來る生活法（十版）

定價五十錢　送料四錢

東京家政研究會

東京市神田區表神保町

振替口座東京三三七八六

業務開始廣告

海上運送保險

今般東京海上保險株式會社京城代理店を引受候に就ては本月十九日より業務開始致し候間何卒御用命被仰付度此段希上候敬白

東京海上保險株式會社
代理店　三井物產株式會社
京城支店

弊社

呼出電話更正廣告

八八〇番……營業專用

八八番……店主室

（從來使用の電話一一五七番を八八〇番に更め候）

鐘路　井上藥品部

（明治三十九年九月十八日第三種郵便物認可）

◎第四革命の端緒たらん

段祺瑞氏態度強硬

江西督軍李純氏等三督軍の調停電報王汝賢氏の停戰主張電報は馮總統及び王士珍の密命に基く事明かとなれるより段氏は飽く迄馮總統に對抗し強硬の態度を持す可く或は第四革命の端緒たらんかと觀測さる（北京電）

◎佛後繼内閣とク氏

佛國後繼内閣は從來[illegible]自ら組織しつゝありし[illegible]はクレマンソー氏の呼聲最も高し（巴里電）

◎露都郊外の激戰

ペトログラード郊外に於ける[illegible]の戰鬪に[illegible]集中され[illegible]行はれ[illegible]は飛行機も參加せ[illegible]多數[illegible]

◎露政治中心所在

ケレンスキー、コルチヤック、[illegible]カレジンの三氏は露國の政治中心は莫斯科及びノブオチエルカスクルに在りと[illegible]

◎露都に火災起る

ペトログラードに火災起り目下熾に燃え擴がりつゝあり（倫敦電報）

◎米鐵解禁交涉打切

遞信省交涉顛末發表

米鐵解禁問題は數次の交渉を遂げ[illegible]に彼我の希望略ぼ一致し解決見込あるを報ぜられしも其後又復米國より對案の提出に接し遂に交渉打切りの已むを得ざるに至れるを以て十七日午後一時遞信省は其顛末を發表せり其の大要左の如し（東京特電）

△帝國の提議

政府は六月中英國より船舶の供與を希望し來れるより造船材料に關し交渉を開始したるも八月末に到り英國に於ても自國造船の救助より之を實行する能はず次で米國の鐵禁止に接し別問題として船舶を供給すると共に材料の供給を得る爲數次の交渉を重ね結局本年中に重量噸數十五萬噸の現存船舶と來年一月より八月迄に米國の供給材料に依りて造りたる約二十萬噸の新造船舶計三十五萬噸の船を提供し來年よりは本年中に約十五萬噸來年一月より二月迄に約三萬五千噸計十七萬五千噸の材料を供給せしめ重量噸數五十二萬五千噸の船舶を製造し[illegible]三十五萬噸を控除し十六萬五千噸の船舶を本邦の自由處理に保有する原案を立て米國に提議せり

△米國の對案

米國は右に對し同意し來れる條件として米國へ提供す可き船舶の船令は七年未滿、代價は現存船一噸百七十弗、新造船一噸百弗たる可き事及び彼より供給す可き材料は我民間契約濟品の内現に製造を終り積出し港に到着又は積出さんとするものに限り然も其期間は本年十一月中に二萬五千噸、十二月中に二十五萬噸明年八月迄に十萬噸たる可き事等を對案として提出し來れり

△政府鐵供給

之本邦海運界の現狀に見て到底同意し能はざる處なるを以て注文品に關する交渉の外別問題として提議せる造船材料需給船舶新造に關する交渉は斷然中止するの處置を執るに決定せり政府は如上の條件に鑑み最近實地調査の結果本邦四十七箇所の造船所に於ける百四十九隻其の重量噸數約五十九萬噸の船舶に對し約一萬八千餘噸の鐵材料を補給するを得ば之れを完成し得可きを以て我製鐵所より供給する事となる可く農商務省に於て目下調査中なり

◎露國政局事情

某露國通談

最近の露國は如何に成行くか[illegible]同國の事情に通ずる者も推斷に[illegible]現在の紛[illegible]一致の結果を生み雨降り地固まる事を爲らるゝか未だ知るべからず

▲勞兵會と言ふ[illegible]獨逸に内應せる[illegible]政府を倒したる勞働者の代表者と言ふ意味に於て[illegible]の敵を倒せる功勳を認め花を持たして成立を來したるなり

▲過激派の内閣の總理となりし首領レーニンと言ふ人物は元來瑞西國的極端の社會主義者にして久しく獨逸に亡命し其、米國にも航りたるより歸來せしなり

▲彼れは瑞獨中已に獨國政府の賣收する處と爲り歸來大金を持遣りて豪奢を極め同業知人に黃白を散して人心を收攬し今日の地歩を築き上げしが其目的は戰爭の繼續を妨害し進みては單獨講和決行せんとするにあり彼も一時監禁の身と爲りしが今は旭日沖天の勢を以て内閣を組織しケレンスキーと雌雄を決するに迄及びたが

▲ケ内閣が始めに此等を芟除せざりしは今日と爲りては一大失策なりと雖も彼等は革命には反對せずして寧ろ進みて社會共產主義を實行せんとする叫なれば當時は之が討滅の辭なかりしなり

▲結局レーニン一派の講和論[illegible]ケ氏一派とは到底一致の見込なく他の社會主義者、立憲自由黨員勞働黨員等は相合してケ氏を助け再び内閣の出現を見るに至るべきか、今少しく時局の推移を待つに非ざれば何とも測定すべからざるなり

◎日支爲替銀行一頓挫

日支爲替銀行は曩に支那政府の許可を受けたるも日本政府は未だ許可を與へず今回[illegible]内閣の辭職を見たれば後繼内閣成立迄自然許可を見合さる可しと傳へらる（東京電話）

◎日本郵船南洋航路經營

從來海軍自ら經營しつゝありし南洋航路は這回日本郵船會社に於て之を引受くる事に決定せり（東京電話）

◎運輸林好況

[illegible]

◎物價騰貴と地方經濟狀況（十二）

京城商業會議所調査

▽江原道

春川地方　當地方に於ける九月中農家經濟狀況を見るに物價騰貴[illegible]直接利益を受くるものは[illegible]本道に在住せる者[illegible]

[illegible]

▽咸鏡南道

本道住民の内農を業とするものは穀價騰貴の爲め地主自作農等は穀類を放出し融通を得日用雜貨品の購入を爲す等多少の餘裕を生じ其の生活狀態も幾分向上せり穀類其他の物價騰貴の爲め[illegible]生活上缺くべからざる日用品の買入に困難を訴ふる狀態なり[illegible]

◎鐵道收入概算

十一月上旬朝鮮線鐵道收入の概算を掲ぐれば前年度同期に比し成績良好なるが其内譯左の如し

[illegible]

一八九、五二五八
噸七、一六八斤
五八、二二九九噸
三一、三三六八
七八、四七八斤
一、四七九
一六〇、一八五四
一五七、一八九
七、三七四
四三四一七四
八、六九六
五二二、一一三

[illegible]一日一哩平均收入に割當れば二十九圓四十八錢にして前年度同期に比し四圓二十九錢の增加なり

◎開通式列席者

十一月二十五日擧行さるべき[illegible]鐵道開通式に列席する官民は左の如し

政務總監　山縣伊三郎
秘書官　遠藤柳作
通譯官　陶山武二郎
土木局技師　坂出鳴海
土木局調査課長　和田一郎
總督府鐵道部工務課長　新田留次郎
三井物産京城支店長　伊藤完弘
内國通運　笠原寛美
全州農工銀行　村瀬鎌二郎
鮮南銀行頭取　朴永根
鐵道理事　小倉武之助
京畿道工務課長　久保要藏
[illegible]　用江秀雄

◎農業會社出願

開城の[illegible]十四名發起となり人蔘の栽培及び人蔘製劑並に[illegible]附帶の業務を營む目的を以て資本金二十萬圓と爲し[illegible]三名を無限責任外十名を有限責任となし目下總督府に對し設立許可の申請中なり

◎酒句領事東上

[illegible]酒句秀一氏は十七日朝[illegible]丸にて釜山發東上せり（釜山）

大阪財界便り

▲大阪商工業の發展に伴ひ取引資金の需要膨脹につれて預金貸出高の激增を示し手形交換高の如きは全く從來の記錄を破り益々增加一方の趨勢なるが此の機に乘じて率先して資本を增加したるは住友銀行にして或は個人銀行の組織を株式に變更して增資し未だ發表せざるも將來增資せんとするものあるは大阪七大銀行の增資額通計五千四百萬圓に上り增資以前の資本三千八百四十萬圓に比し七割強の大發展なるのみならず更に藤田の一千萬圓の新銀行を開業せば總計六千四百萬圓にして今後大阪金融界の面目は一新を來すべし

○米國禁鐵解除の虛報なりし事は明せるが米國の態度が絕對的禁止に非らざるべしと推測せらるゝ以なきにあらず之を大阪各倉庫九十月在荷に徵するに各種鐵材は減少せずして却て增加を示し特に十月は三百五十萬圓餘の在荷にて增加の第一を占め尙本月に入りても入荷あり神戶にては一層多く入荷し從て其在荷も增加せる事實に徵すれば米國の態度の絕對的禁止に非らざる消息の一端を窺ふに足るべく其入荷中には米國の鐵商が輸出禁令前に契約せし西班牙其他に移送し得ざる鐵材にして本邦に振り向けんものありといひ米國は本邦に先禁鐵の國策を執りたるも亦手心を加へ多少需要國に向つて流出の餘裕を存したるものと見る可く或は今回の虛報が各條件附にて幾部の鐵を事實に現はすやもはかり難し

○近來歐洲交戰國の入超調節の禁出の頻々たる結果本邦貿易品の影響を蒙りしもの著しく增加し大阪貿易品の如き最も打擊の程度高き事を示し其大小品の如き旣に[illegible]最近稀有の打擊の現はれしは先づ輸出向刷子にして昨年の大好況に反し本年に入りては一變不振に陷り昨年の三分の一内外に激減し各工場は職工を解雇し一部休業の慘狀なるを始め昨年一躍十倍の大發展をなしたる製革業も本年は露國混亂のため原料皮の輸入不如意となり產額急に減少し又貝釦は昨年の好況に似ず本年は海外諸國の代用品利用等のため需要大減退を示し最も盛んなりし米國向の刷子の如きは米國に於て他國より原料を輸入自製したる結果大阪品よりも良好にして而も價格略ぼ同一となりし爲め全く輸出杜絕に近き悲況となり更に玩具類は其品の中に包含せられ最も輸出額多き大阪玩具は五六割內外の打擊を被むるに至り休業或は轉業者多く其の他銅、石炭砂糖の如き伸張力稍行惱み概して輸出品に昨年の大好況を一期として漸次減退の傾向を示し來れるは本邦貿易の爲めに大に注意すべき事なるべし

◎西比利亞沿線に於ける物資

西比利亞沿線に於ける食料品及び燃料は極めて豐富なるも而も食料品に至りては[illegible]に於ては日本內地に於ても見出す[illegible]良好なる白パンを[illegible]一度ウラルを[illegible]び手袋の如きは何れも十留乃至十[illegible]ずと云ふ狀態に在りては官吏商人[illegible]以外に於ては食料品を手に入[illegible]ことを得べく、要するに北の[illegible]にあらざれば到底想像されざる[illegible]行せり吾人一行の乘車せし列車は十月六日ウラルを通過しつゝあり[illegible]

◎一代議士出發

滯京中なりし代議士與田銈造同樋口龍峽の兩氏は十六日午後七時五十分南大門驛發列車にて內地に向へり

◎國友警視歸任期

江原道京畿道管內視察の爲め出張中なる國友警務課長及び脇野警視は十八日午後二時歸任の筈

◎寺島警視著任

本月十二日附を以て釜山警察署長より京畿道第三部高等警察係勤務に轉任を命ぜられたる警視寺島才二郎氏は十五日夜南大門驛着列車にて着任

◎川上理事去來

川上東拓理事は十五日午後公州著同夜公州の重なる官民新聞通信記者等三十餘名を富の屋に招待し[illegible]十六日午後一時發の自動車にて[illegible]へ向け出發せり

◎久留島氏總督府訪問

文部省囑託久留島武彥氏は十七日午前十時山縣政務總監を總督府に訪問し入京の挨拶を爲せり

百聞百種

▲英國の成人[illegible]慰問金募集を思ひ立ち其の募集に犬を使役することにして之を訓練したら頗る好成績▲募集犬の首に銅製の箱を吊し汽車や汽船の着毎に其の犬を追ひやる▲すると大抵出迎人などよりは眞ッ先に驅け付ける▲巧みに寄附金のあり相な客に其の頭を擂り付け[illegible]犬の手前義理にも若干を投ずる▲犬も其處は甚だ心得たもので首を振つて銅器の充否を試み▲チャランノーと鳴る内は未だ入る餘地があると云ふので音のせぬ迄募集に走せ廻る▲愈々充實したと思ふと直ぐ驅け戻つて器を開けて貰ひ再び募集に奔馳する▲其の結果一年有餘にして遂に一千磅圓に達したとは事實談である▲英國では約三百萬の男子が軍隊に召集されて二十五パーセント以上の男工は各工場から消え去つた▲男工の減少に反比例して軍需品工場は激增するので職工の缺乏に困つた▲其處で其の缺乏は婦人勞働者で補充して行く事として現下では直接軍需品製造に關係して居る婦人勞働者はザット六十萬人▲其他大概の勞働に婦人が關係して居る▲其處で英國女の鼻息は實に當るべからざるものがある▲若し吾々婦人が居なかつたならば今迄に獨逸はもう最後の勝利を占めて居るのだろうと▲これでは戰後の婦人界も鏡はる▲が男子の方では大分悲觀して居る者も多いとの事

強くて温い日本一の

衛生經濟を重んぜらるゝ各位
是非一度御試用を乞ふ
東京大傳馬町
寺田淳平商店
特約販賣御希望の方は御申越次第「營業案内」進呈可申上候

特許機械製
ほまれみそ
於第八回日本產業博覽會
銀牌受領
仁川府松林里
釀造元　日本醬油株式會社

腦神經衰弱
頭痛特效藥
エクレス
高橋藥學博士監督の下に出來た腦神經衰弱、頭痛特效藥にして頭痛、腦神經衰弱、其他神經障害より起る諸病に對して著効あり。
定價　金二十錢　五十錢　一圓三十錢
發賣元　東京室町
泰昌製藥株式會社

然り
菊ならば　黃菊白菊
菓子ならば
森永
ミルクキャラメル

中旬報告
貯蓄債券
[illegible]
勸業債券
[illegible]
◎次回抽籤大正[illegible]六拾六回一等四千圓割增金の樂しみある組賣あり
[illegible]
和田合名會社
大阪市西區土佐堀電車停留所角
振替口座大阪六一四八番
電話土佐堀（長）一八二三九五番

[illegible]より露都に到着したる某要路の大官より某所に通信したるシベリア沿線及び露都の狀況を摘記すれば左の如し

[illegible]なるは注目に値する所にして烏拉爾山中の各停車場構內賣店は悉く閉鎖し居れり僅かにエカテリンブルグ線に若干の黑パンを認めたるのみ、ウラル、バイカルの中間地區[illegible]手袋シャツ等の日用品を需むるも是等は概ね日本製品にして其價格到底露國軍人等の需要に應じ得らるゝ所にあらず例へば日本にて二十錢の粗末なる莫大小シャツ及[illegible]在滿洲等の人民[illegible]りあるが故に食料品弱之を原因として極東露領に露人の一揆を見ると雖も一般物價高昂して留相場の低落殆んど底知らゝ如く[illegible]方を推論するは無謀なるが如しと雖も鐵道沿線の物資（燃料を除く）は概ね露都に運び出されたるもの少の狀態なるも各河川に沿へる地方は南露に比し物資豐富なりとの事なれば艀貨の便ある[illegible]ペルム（ウラルに近き一大[illegible]）に近き[illegible]搬出せんか容易に潤澤なる資源に[illegible]商店の閉鎖せるは少きも物價の騰貴には一驚を喫したり即ち林檎一個の價二三留又梨はその大なるもの一個十留は實地に目擊したるも[illegible]價者の作業力に待つ所大なるを以て彼等は一層增長し事毎に當局を惱し居れり現に十月始めの鐵道罷工の如きは組織ある方法にて斷行し容易に二億留の支出を途[illegible]て運轉を[illegible]踏逡巡し屢々無用の地點に停車せしめ爲めに露都著は規程の時間より二十四時間を遲著せり

●龍顏殊の外麗はしく
玉盃の數を重ね給ふ
◇文武百官星の如く居並びて彥根城を背景とする大饗宴◇

十七日午後三時より御慰勞の大御心より美はしき御宴を賜はりたる大宴場は彥根町立商工學校の裏手五千坪にして一面彥根城の壕に沿ひ近く三層樓を仰ぐ景勝の地なり、上は元帥大將より下は一少尉に至るまで菊を挿して參集吾等又陪宴を許されて到る、此地に於てか多數の吾等文武官を

♣一場に會したるは殆んど空前の事 なるべし入口は中央と左右に大拱門を設け會場は天幕なれど斬新なる趣向の中に壁柱等に至るまで悉く白木綿にて包まれたる一面に眞白き四邊の光景は一入莊嚴の感を起さしむるものあり建物の內部は中央に一段高く玉座ありそれを中心として菊花の半輪を形どり七種の放射狀の中には一棟約五百名づゝを容れ得れ多くも何れの末席よりも

♣玉座の御模樣を拜するが如く設備 せられたり、やがて刻到り松方內大臣を始め各元帥、大臣、陪觀の各外國武官は最も玉座に近く其他は隨意に著席し著御を待ち奉る中に大元帥陛下には馬車にて著御少時御休憩の後諸員敬禮の裡に玉座に著かせられたり茲に拜し奉れば陛下は御正面に其左右に宮殿下侍せられ其に最も近く松方內大臣以下宛ら綺羅星の如く、折柄御宴の合圖と共に光榮ある御宴は開かれたり、斯る中に玉座にて松方內府、波多野宮相、後藤內相、大島陸相、各元帥、將官、衆議院議長、外國武官等

♦重なる人々に畏くも一々天盃を賜はれり 聖上には始終笑顏に微笑を湛へさせられいと御滿足の御氣色にて玉盃の數を重ねさせられ各宮殿下など御相手に四方八方の事ども御物語らせ給ふ、晚秋の陽春の如く風は輕く玉座の盛花を吹いて和氣靄々たり、かくて陛下には御還幸仰せ出され諸員又退散せり（十七日午後中谷特派員發電）

▲閱兵式見合せ
拜觀者殘念がる

十七日閱兵式を行はせらる可きの處陛下出御前より降雨蕭りなるより見合せとなれり當日の壯觀を見んとて遠近より集まれる人々は甚く殘念がり居れり（十七日午後彥根發電）

▲聖恩 枯骨に及ぶ
四十名に贈位 信長は正一位

大演習終了と共に贈位の光榮に浴する者四十名にして其內最も重きは織田信長の正一位なりと（彥根電報）

▲珍重すべき 支那書畫（一）
◇◇その名前に眩惑◇◇ ◇◇されては不可ぬ◇◇
松村六六氏談

支那漫遊中なりし松村六六氏は此程入京目下京城ホテル支配人猪原貞雄氏方に滯留中なるが支那書畫の鑑賞に就いて語る

由來支那書畫の嗜好が盛んになつて書畫を鑑賞する程の人で支那名家の作になる書畫を收藏せない者は無い程であるが往々

▽◆名前に 眩惑されて眞贋を偵ばない傾向があるのは遺憾である例へば趙子昂とか蘇東坡とか言ふ大家の名があれば眞贋の鑑識もせずに手に入れやうとし書畫面が古く煤けてさへ居れば

▽◆無條件 に感心して了ふが元來書畫なる者は眞に鑑賞する人の手に收藏されて居れば時代相應の色を帶びて居て不自然な煤色を呈して居る事はなく宋、元時代の書畫なれば

▽◆肉眼で 鑑識する事が出來ない程に蒼然たる古色を帶びる者とは限つて居らぬ特に明代に於てをやだ從つて煤色を呈して居るものが必ずしも珍重すべきで無い事は何人も首肯し得る處であらうと思ふ一部の嗜好家中には

▽◆支那で は香を焚いて鑑賞する風があるから自然書畫面が香の煙の爲めに燻ぶるので信せられて居るが如何に香を焚いても其爲めに價値を生ずる者ではなく寧ろさうした者は

▽◆贋物か 否らずんば帝王貴族や翰林の學者の如き眞の鑑識家の收藏にならない者であつて名門家の鑑定を經ざる以上直ちに信用する事の出來ない者である元宋元時代の名書畫は坊間に彷徨して居る筈が無く其の

▽◆大部分 は眞の嗜好家の匠に深く收藏されて居るし、滿清時代の豪富な名書畫と雖も專門家さか知名の士ならばいざ知らず假令骨董屋と雖も容易に手に入れらるべき者ではない、一體骨董屋なる者の鑑識は怪しいものだから

▽◆骨董屋 などで容易に掘出物などを期待する事は先ず稀有の事とせねばならぬ若し彼等が支那の愛藏家と交遊接近して名書畫を手に入れ得る程の手腕あるものならば別論だが是は容易に期待すべからざる事である、支那人は誇利主我の國民ではあるが書畫などの趣味に至つては極めて高尚な頭を持つて居て

▽◆互ひに 古今の文墨論などして胸襟を披いてからでないと秘藏品を見せない割讓を懇請しても朋友として交遊する價値ある人格と眼識を有するか、又は世間知名の士で無ければ一幅を頒つ事をしない、此邊の消息は所謂支那通でなければ分らぬから斯道の嗜好家は書畫を買ふ宜しく一隻眼を有する專門家の鑑定を俟つて始めて大金を投ず可きである

●足立氏の追悼詞
來會者一同を感動せしむ
故吉原氏追悼會

前東拓總裁故吉原三郎氏の一周忌追悼會は十七日午後一時より南山町京城ホテルに於て執行されたり、最初神官の祓詞祝詞ありし後發起人側を代表して宇佐美內務部長官東拓社員を代表して足立殖產課長の追悼詞朗讀あり終つて高野三井店長は川上東拓理事の

●追悼電報を 朗讀し二時散會せり、尙參會者の主なる向は山縣政務總監、渡邊高等法院長、宇佐美內務部長官、小原殖產工部長官、松永道長官、三島鮮銀理事、高野三井店長、遠山湖南工銀頭取、西村第一銀行支店長、山口太兵衞、古賀城堂、朝鮮人側よりは宋秉畯子、李完用男、趙鎭泰、白完爀、韓相龍氏其他大垣京通社長、小幡朝主幹、阿[illegible]本社長等を始め約二百人に達し頗る莊嚴なりき、足立氏の追悼詞朗讀中吉原氏の東拓に於ける

◆創業當時の 苦心を其辭職に際し病氣の頽を挺して一意專念職務の處理に盡瘁せし心勞と曾者の感動を惹きたるを敍し言々切々涙共に下りて來因に當日東京にても故吉原氏の遺族に依りて同じく一周忌追悼會が催され當地追悼會發起人に宛て故人の爲めの追悼會を開かれたる御好意を感謝し參來會の諸君に宜しく御禮御傳へを請ふとの禮電來れり

故吉原氏追悼會

●千圓行囊を拾得す

昨年十月朝鄭順天丸が全南海倉にて郵便行囊五個を艀舟に積替中風波の爲め艀が轉覆し行囊全部流失し程經て四個は發見せしも現金一千圓在中のもの一個は遂に行衛不明なりしが一年後の今日倉落憲兵出張の補助員が件の行囊拾得者あるを探知して犯人を逮捕せり犯人は長興郡古邑面東里李亨根（三三）李子煥（四二）金鳳煥（三一）の三名にて同人等は漂流中の行囊を拾得し其の儘深く隱匿し一年も過ぎたる今日なれば大丈夫と思ひ消費しつゝありしことより足がつき遂に檢擧されたる由にて僅か九十餘圓の現金は發見押收し目下取調べ中なりと

●猛猪六名を傷く

全南羅州郡羅新面月峴里にて鐵道工事中の人夫の中に十三日一頭の大猪現はれ來れるより多數の工夫等手に手に獲物を携へて包圍し鶴嘴を五箇所打ち込みて遂に殪したるが體量四十餘貫の莫物なりしと工夫竹山某は猪と格鬪中背部に長さ五寸計りの裂傷を負はされ其他五名も重輕傷を負はされたるが何れも生命には別狀なし

●昌慶苑の開園期

昌慶苑動植物園は來週の火曜日より開園の筈なりしも都合により又々開園を延期し來る二十六日開園する事となりたり

●西本願寺の解剖祭

醫學專門學校に於て是まで解剖に附したる屍體は二百八十に達し毎年秋季之を解剖祭と稱へて法要を營み來たりしが本年も十七日午後二時より西本願寺別院に於て之を執行し各宗僧侶の讀經ありて次に保教授祭文を朗讀し夫れより芳賀院長、森安博士以下各教授、看護婦生徒及び遺族並に在京の僧侶列席し西本願寺開教總監の法話ありて午後四時式を終れり

●本社代理部と和洋服

本社代理部に於て今回業務を擴張し書籍の假販賣の外內地の確實なる一流の商店の依託を受け和洋服地類、時計、指環、其他の裝身具等を廉價現金にて販賣する事となりたるが和洋服は仕立一切をも引受け熟練なる裁縫師に仕立てさする事となせり

●妙心寺提唱

臨濟宗妙心寺別院にては十八日午前十時より大雲師の提唱あり聽聞勝手なりと

●殘念にも取逃がす
◆愈々火蓋を切つた征虎隊
‖虎を趁うて前進又前進‖

征虎隊一行は十七日午前八時高原郡水洞面を發足し正誠峰に於て愈々虎狩を開始せり先發して實地を踏査せる砲手本田某の鑑に依れば虎三頭豹五頭棲息せる事を確めしより一行の意氣昂然として頗る緊張し前進又前進す一方御大山本氏は十六日數名を從へ永興面より本隊と分れ馬南嶺に向つて進みしが山中の斷崖にて一頭の虎に出會し砲手は直ちに銃を執つて矢庭に一發を見舞しも手應へ無く遂に取逃したるは殘念なりき然れども之が爲め一行の元氣は益々旺盛となれり十八日は更に二隊に分れ狩立つ可く少くも一頭は獲物ある確信あり（高原にて早川特派員發電）

●大造殿出火と女官の取調べ

昌德宮大造殿火災の出所は既報の如く女官の更衣室なること判明せしも其の原因に至つては殆々[illegible]

悲しき別世界
濟生院養育部（四）
―孤兒狀況參觀記―
いぢらしい孤兒の群
憐み根性の出ない樣に

何うもこれには確かに犯罪事實が潜んでゐるに違ひないとは思ひましたけれども強て他

■人の罪惡 を追求する必要もないと思つてそのまゝ小供を返へしてやりました。後で話を聽くと、その女は夫婦喧嘩をして夫は息子を、妻は娘を連れて夫婦別れをしてその娘の處置に困つて本部を尋ねて來たそうです。ところが本部から跳付けられて、三坂通の養育部は道もよく知らないし、面倒だと思つてそのまゝ路傍に棄てたが間もなく夫婦仲直りをして元の通りに同棲する樣になつたので又警察に搜索願を出したそうです

■隨分滑稽 な樣な滑稽な話ではありませんか」と丁度その時京城高等女學校三年生徒の一隊が雪や霙を突破して仁王山の方から泥塗れになつた足を引摺りながら入つて來た。

私は上野訓導に案內されて訓育室、作業室、浴室、宿舍等を一々巡觀した。宿舍は一室に十五六人づゝの小供がゐてそこには一人づゝの姆母が付いてゐる。そして一室を隔てゝ一室づゝ離れてゐるのでその宿舍に入ると子持の

■後家樣の 生活を思ひ起させる。左手の宿舍に入つて見ると今しも方授業を了へて教室から歸つて來る孤兒の一群が上框の處に立つて頭の雪を拂ひつゝ、「御姆母只今！〳〵」と姆母に挨拶をする樣な顏をして宿の中に入つて往く。その後影の寂しさ！私は姆母に子供等の養育について苦心談を聞いた。姆母は優しい口調で

■氣苦勞は 中々一通りや二通りではございません。中には隨分身體の弱い子供も居るし又非常に僻み根性を持つてゐる小供も居りますから病氣のしない樣に、僻み根性なんか持たない樣にと一々氣を配るにはそれは隨分氣が折れるので御座います。しかしそうして養つて往く內には小供も段々馴いて來て親身の親子にも劣らない情愛が湧いて參ります。そしてそれが樂しみに骨が折れるとか嫌だとかいふ樣な思ひは一向出ません。私はずつと前から他處へ參らなければならない事情もございますけれどもこの

■小供等を 置いて他へ往く事は實に忍びない樣な氣がしまして今までかうして居るので御坐います。」あゝ美しい人情美。自分の子を棄てゝ顧ないといふ人もあるのに他人の小供を養つて樂しみにするとは何といふ美しい心掛ぞ！右手の一室に往くとこゝには輕い病氣の小供等を養生させる病室だといふ。病氣の小供等はちやぶだいを取り圍んでお粥か何にかを食べてゐたが私が入つて往くと皆箸を置いて「今日は〳〵」と

■行儀正し く挨拶をする。私は「さあ皆樣、構はずにお食りなさい」と言つた。すると小供等は置いた箸を取り直して食べ始める。あゝいぢらしい小供等。親や兄弟が有て身を蔽して看護をして與へても猶病氣は辛いもの悲しいものを、縱へ慈悲深い姆母が實の母よりもな勝した情けを持て優しく看病をして吳れるとはいふものゝ彼等の胸に深く潜まれてゐる辛さ悲しさが何うして〳〵癒されやうぞ―（靜星）

▲廣告▼

松露すし　家庭料理用口取　外鍋ろい

大勉強　御用命の節は迷ず商店化用し化粧品類　外國製造品繪具等藥品用香油化粧品類　遠近を問ず御用命を願上候　京城南大門外（大）福島屋　電話一五七四番

恩給年金立替代理店　京城旭町（?）大和町

京日案內　普通五十字迄一回金（?）

▲店員二名入用　京城本町一丁目　希望者來談あれ　織田東洋 30

●製本職工數名募集　希望者は來談あれ　本町二丁目　町田印刷部 57

●貸家　新築官舍向　六丁目初音町電車停留所東南　本町一丁目杵屋電話二三四〇 58

店員數十名入用　但し商業に經驗ある者　南米倉町二丁目　大和町三丁目百廿番地大橋大三郎 56

●貸家　閑靜の地獨立家屋希望の御方は上坂方へ 60

●帳場入用　年齡卅歲以上五十歲迄　市に確實なる保證人を要す　京城旭町一　石炭薪炭商　横山屋 51

△店員數名募集　二十歲前後保證人を要す　京城蓬萊町三丁目　酒醬油釀造場 47

●家賃賣却　家屋延百六年（?）家賃月三十圓有　階坪十三間　鍾路　小林代書所 37

古本高價買受　御報參上　明治町通　野村書店 7

號外

募集　石版職工數名至急入用　黃金町三丁目二九一　大盛堂印刷所　電話三〇五〇番 53

●讓店　本町通り目拔の場所有利益確實なる菓子店の儘至急讓る希望の者は南米倉町三河旅館へ來談ありたし 47

●銃砲火藥獵具　京城本町三丁目電話二〇九二番　增戶銃砲店 764

銃砲火藥獵具　本店京城南大門通三丁目電話一五六〇　支店仁川　青島　藤木銃砲店 785

恩給年金立替　低利無抵引即時　若草町百六　電話三十一　西村商會 79

給仕募集　日本人年齡十五歲以上本人來談　京城明治町一丁目　日韓印刷會社 55

簿記實踐教授　實踐簿記專修學院　京城長谷川町八九金谷園側 65

外務員募集　二十五歲以上履歷書持參午前來談　明治町一丁目　東京國債　京城支部 61

拜啓各位御清榮奉賀候陳者弊社勸業債券月賦濟州事務は從來朝鮮債券部並に勸業貯蓄會社朝鮮支部に於て取扱ひ居候處に於ては債券番號通知並に滿期債券御渡し等時々遲延し不都合有之候に付自今監督銀行たる當行內に於て御契約當時の名稱の儘取扱ふ事と相成候間御要點は當行御照會被下度集金は郵便にて取扱ひ可申候間御心置きなく御拂込被下度不取敢御挨拶申上候　草々
京城府本町一丁目　株式會社　商業銀行
東京市麴町區三番町　勸業貯蓄合資會社

京城本町一丁目　岡本齒科醫院

見落せし御方はなきや　後悔先に立たず愈々今明日限　◎終編　潛航艇の秘密　見よ東洋人の底力強き働き振りを　滿員續きの……有樂館

竹內製　ベント式金庫
偉大なる設備に依り製作せられたる他に比類なき最優等金庫
竹內製金庫　消防器具　洋家具　歐風事務用具
京城本町　熊平支店　電話三二四番　振替京城二二一五番

鞄製造販賣
皮より強い値の安い　專賣品柳製鞄
日ノ丸國旗附屬品　毛布二枚續き　三圓五十錢以上種々　防水布マント各種　魔法瓶及中瓶取替
京城本町一丁目　高木旅行用具店　電話一三四番

中央婦人病院　京城明治町二丁目（元漢城病院下經邊）電話二三四〇番　院長　衣笠茂

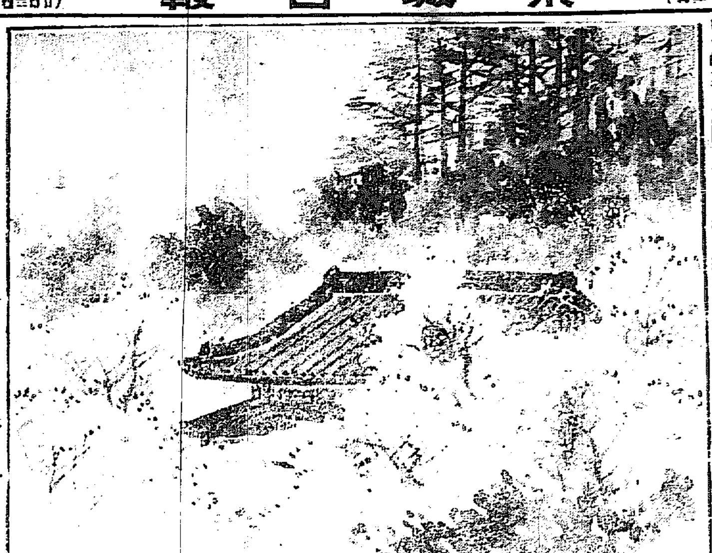
★資本金壹千萬圓　頭取　安田善三郎
株式會社　百三十銀行　京城支店
京城本町壹丁目　電話五八番　一九三四番　振替貯金京城二一一番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地有之候

第七十回 大阪霞の家主人

安藝の月（十）

采女は斯くして美知姫の供に加はつた、福島備後守の奥方ではあれど、家康の姪といふので、到る處に歡迎される、石田三成が存命で居た頃は、西國大名の大半まで家康に反感を持つて居たが、關ケ原の一戰に功を收めてからは、今まで背後を向けて居た者まで、頻りに追從輕薄する、その間を徳川家の血族が旅するは、自分の領地を練り歩くと同じであつた

大阪からは舟に乘る、定紋の付いた幔幕で周圍を飾つた御座船を



中央に、多くの供船が前後をかこんで、順風を孕み內海を乘り切る、婦人を主とした海の道中は、さぞ困難であらうと思はれたが、何の障害も無く廣島の港へ着いた、毛利輝元が山陰山陽中國に渡る十箇國の富をもつて築き上げた廣島の城は、秋霞の棚引く中に聳えて、この新來の主を迎へた

最初の評判では、毛利の軍兵が福島勢を相手に最後の一戰を試みるであらうと云はれたが、輝元の歸順に由つて、矢一筋射出す者も無く、正則の總家中は堂々と入城した

美知姫は改めて正則に對面する則は從來に見ぬゆつとりとした樣で、美知姫に挨拶した、淸洲の城に居るときは、多少家康の姪といふに遠慮したが、廣島へ移つてからは、その遠慮がすつかり除れた

『なにさ、江戸の内府がどれほど豪さうにして居ても、今度の勝利はわしのお蔭で得られたのぢやないか』との傲慢が鼻の頭へぶら／＼出る

師事にも敏捷い心と、敏捷い目とを持つて居る美知姫は早くも正則の態度を見て取つて、安からず[illegible]

美知姫は[illegible]旅に疲れた身を[illegible]

[illegible]櫻御殿である[illegible]

にして設けた室で、襖にも天井にも櫻の花が書きつぶしてある、前栽は都から大阿彌といふを招いて風流に作らせたが、裏庭に芳野山から櫻の稚木を取り寄せて、五千坪ほどの間を一面の櫻畑にして居た、そこには山もあり、川もあり、丘もあり、野もある、さうしてそれへ配置好く櫻を植ゑる、櫻御殿の名は之から起つたのである

『何んとまあ、澤山な櫻ではございませんか、これが咲いたら何樣にか美しうございませう』と浮橋は裏庭を廻つて來て云つた

『來る春が待たれるわの』

美知姫も美麗なことを好きであつた

采女は初瀬の部屋子並にして、遂に廣島まで伴はれた、男兒ながら優しう怜悧で、忠實しく立ち働く、兒の彦丸は正之の扈從に付けつれて、表勤めへ廻つて居るので面を合せることは殆んど無い、そこへ弟見たやうな采女を得たので浮橋は陰になり日向になり『采女どの／＼』と懐しむ

併し、いつまでも御殿に置くことはならぬので、道齋を頼んで、大矢田助左衛門の手許へ預けた

誠之助と初瀬との間には、相變らず牛壁が置かれて居た、初瀬は只一目逢つて、縋りたいと思つたが、幾度手紙を出しても、封のまゝ返される、尋ねて行くに道もない、個々道齋がお錠口へ來るのを見かけて、[illegible]手紙を頼んでみてある

道齋は誠之助の爲めに危い命を助けられた恩があるので、どこかして初瀬との間を元の通りに結び付けやうとするが、誠之助は振り向いても見なかつた、少しでも初瀬に心を寄せるのは、勘當した三左衛門の前に誓ひを破ると同じである

手皮なめし仕立 [illegible] 京城本町二丁目 柳元商行

日報俳壇

秋季雜詠二

鶏々と寢付かれぬ月の夜長哉 同
鶏頭の四隅ら枯れ干されあり 同
紡ぎ唄[illegible]長夜かな 同
在日の船の修理や秋の雨 同
腹に響く青の木魚や秋の雨 [illegible]
ウタセ網干す磯村や飛蜻蛉 [illegible]
家毎に柿の熟れ居る漁村哉 同
[illegible]乙女の跳む[illegible] 同
窓に近く奇峰聳つ紅葉哉 同
寂[illegible]木枕寒し鹿の宿 同
因車過ぎし轍の跡や秋の雨 楓
迷信に木を祀る國や秋の雨 同
自炊子の借家搜すや秋の風 同
古墳發く拒む里民や秋の風 同
橋脚に懸る簗あり秋の雨 想仙
火消壺に竈馬悲しく厨哉 同
[illegible]束ねて燃やす畑哉 同
齒の音に獨り守り住む庵哉 翔
畝對りの籠に覆して通り鳧 愛風
朝日の白き棚田や鵙の立つ 柳坡
秋の道登り盡せば茶店哉 汀断

霜 浮碧樓
時計こゝろよく鳴り果て大霜なり 田柿
霜夜そこそこにエプロンさへ濡らす 華
霜夜提灯の灯で讀み使かへす 島堂
箇の火器りなく火鉢に取り霜 [illegible]

紅葉亭主人の句

町の名園、紅葉亭の主人和田雷[illegible]君、昨今已に[illegible]の雨夜木の葉[illegible]致に悠々吟懐を遣りつゝある[illegible]響くの情あるに任せ[illegible]ある中の數句を錄す[illegible]

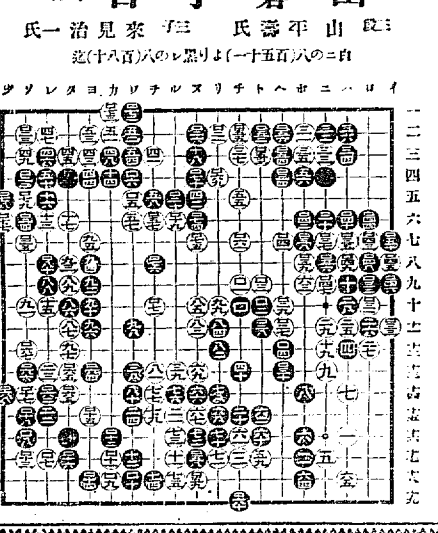
新刊紹介

▲愛知縣商品陳列館報告 [illegible]
▲月報 [illegible]
▲月の研究 [illegible]
▲時事評論 [illegible]
▲菊石の珍味 [illegible]
▲婦人週報 [illegible]
▲地方行政 [illegible]
▲養鶏と園藝 [illegible]
▲鮮[illegible]報 [illegible]
▲ミツワ文庫 [illegible]
▲臺灣教育 [illegible]
▲朝鮮金物貿易報 [illegible]

圍碁手合（六）

三段 山平壽氏　三子 來見治一氏

白ニの八（一百五十一）より黒レの八（百八十）迄



白□五一は二の八に繼ぐ　白□七九はその右端さる

大評判の 安全おしめカバーは 有名なる田中光太郎先生が最新衞學上の研究の結果發明されたる完全無缺の [illegible] 田中商店

淋病新藥 内服 ホシゴノール 外用注入 ホシズルフアミン 急性慢性淋病消渇 東京日本橋區通旅籠町三 星製藥株式會社

痔一切 内服 ホシ痔劑 痔核・脱肛・痔瘻・痔出血 定價 十錢 廿錢 卅五錢 星製藥株式會社

りん病 急性慢性を問はず 士發見の最新藥配合 淋滅をお用ひあれば全治速なり 七日分一圓五十錢 十四日分二圓五十錢 他店に御買ひ下さらず直接本舗に御注文あれ 京城黄金町三丁目 振替京城三二七番 山田文殊堂藥房

模範牛乳 ニツソ 有名洗粉 醫學博士 肥塚正太 京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話五二番

最新刊
新文學概論 本間久雄 七五
結婚の幸福 谷崎精二 七五
ひかれものの唄 九五
光の巷（脚本） 八五
神さま英雄の話 一、二〇
惡魔と惡魔 一、〇〇
漂泊の皮 三〇
彼岸過迄 一、〇〇
鬚虚集 一、〇〇
ハウツーライト エンドョーレクトリー 一、五〇
仙道と仙術 一、二〇
文語作例新式書簡文大成 二、〇〇
美文韻文句選集 四〇
日用文の作り方文範 四〇
記事文の作り方文範 四〇
新らしき文章の作り方 四〇
私法論 二、五〇
最新水力電氣論 二、五〇
大阪屋號書店 振替京城二五七

日本郵船仁川出帆
○大連行、太沽（天津）牛莊行
相模丸 十一月十一日
高砂丸 十一月十二日
三河丸 十一月廿四日 正午出帆
仁川港濱町 堀回漕部

金泉尚州間自動車著發時刻 [illegible]
織居自動車部 金泉支部 金泉電話四八番

大阪商船仁川出帆
○神戸、大阪行
×濟州丸 月 日 後二時出帆
×濟州丸 月 日
○群山、神戸、大阪行
汕頭丸 十一月十八日 後二時出
溫ノ川丸 月 日
○木浦、釜山、門司、兒の浦、長崎行
×安東丸 十一月十八日 後二時出
安東丸 十二月四日
○南浦行
汕頭丸 月 日 後二時出
濟州丸 月 日
○鎭南浦、大連行
×安東丸 十一月廿九日 後二時出
安東丸 十二月 日
○西湖津羽津城津清津行（元山出） 宮島丸 十二月四日 後十二時出
○滿清行（元山出帆） 安平丸 十一月廿七日 后十一時出
○上海、基隆、打狗行（大連出帆） 湖北丸 十二月四日 前六時出
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二番
切符發賣所 國際通運會社京城支店
切符發賣所 仁川京城 [illegible] 旅館

朝鮮郵船
○關門より釜山各地經由雄基行 但し×印あるは江原道寄港せず
×三浦丸 十一月 日
×成鏡丸 十一月二十日
京畿丸 十一月廿四日
忠清丸 十一月廿九日 釜山發
○元山より北鮮各地經由雄基行
慶城丸 十一月廿二日
城津丸 十一月十七日
咸鏡丸 十一月廿三日
三浦丸 十一月 日
鏡城丸 十一月廿五日 元山發
○浦鹽行（元山より城津清津雄基經由） 平壤丸 十一月廿一日 元山發
○元山より釜山關門行 三浦丸 十一月廿四日 京畿丸 十二月五日 元山發
○元山より江原道寄港釜山關門行 咸鏡丸 十二月一日 忠清丸 十一月廿日 元山發
○鬱陵島行浦項及各地經由 鬱陵丸 十一月二十日 釜山發
○浦項行（長生浦方魚津甘浦九龍浦經由） 江陵丸 襄陽丸 毎日 釜山發
○濟州島行長承浦鹿水巨文島經由 昌平丸 十一月十八日 釜山發
○釜山、麗水間 巨濟丸 統營丸 毎日 釜山發
○濟州島行（東廻り…西廻り…） 東廻り公州丸 十一月十九日 西廻り慶興丸 十一月 日 木浦發
○木浦鹿水間（鹿水にて釜山行接續） 順天丸 三日目毎に 木浦發
○木浦より多島海各島行 慶興丸 十一月廿二日 木浦發
○仁川木浦行（群山其他各地經由） 仁川丸 十一月十七日 晉州丸 十一月廿一日 仁川發
○南浦行（海州其他各地經由） 麗水丸 仁陽丸 十一月二十日 仁川發
○海州行（江華島喬桐島經由） 全州丸 南陽丸 毎日 仁川發
○青島行（芝罘、大連經由） 江原丸 十一月十九日 仁川發
釜山支店 元山出張所 仁川代理店 木浦代理店 京城代理店 [illegible]

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十一月廿二日 後四時出
大有丸 十一月廿七日 後四時出
神代丸 十一月廿五日 後四時出
君が代丸 十一月 日 後四時出
仁川代理店 高杉回漕部

共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行
共同丸 十一月十八日 午後九時出帆
阿波共同汽船株式會社 本町四丁目 仁川代理店 野口商會 元山代理店 田口回漕部 京城取次店 河村運送店

釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行
和歌浦丸 十一月廿一日 後五時出
立神丸 十一月二十二日 後五時出
○元山、清津、浦鹽行
元山丸 十一月二十日 後十時出
○第三琴平丸 門司、宇品、神戸、大阪行 日後六時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三琴平丸 月 日後六時出
○佐須奈、嚴原、芦邊、博多行
天真丸 毎月二日九日十四日廿日廿六日 午後十時出帆
釜山港 大池回漕部

下期 十七日後場（桑、行當り横線） 寄付 大引 [illegible]
大阪期米 寄付 高値 安値 [illegible]
仁川米豆取引所 十七日の一月限 寄付 [illegible]